

1

3つのまちの姿
安心して快適に
暮らせるまち

1

関係分野(基本計画)

社会福祉

SDGs

3
良質な生活環境

17
持続可能な開発目標

目標3

目指すまちの姿

- 住み慣れた地域で生活を送るための生活基盤が充足し、生きがい、役割、人や社会とのつながりを持ち、すべての人が、その人らしく、自立し、安心して住み続けることができるまち

実現したい交流
大切にしたい交流

- 保健・医療・福祉が一体となって、誰もが役割や生きがいを持ち、社会参加へとつながる支え合いを基本とした交流

成果指標と目標

- 高齢者の外出支援事業利用件数(現状 R5年度 2,701件)
目標値(R10年度末) 3,000件
- 障害者の移動支援事業利用者数(現状 R5年度 57人)
目標値(R10年度末) 70人
- 地区運動教室の開催地区数(現状 R5年度 45地区)
目標値(R10年度末) 60地区
- AI乗合オンデマンド交通「のらざあ」の障害者、介護者の延利用者数(現状 R5年度 16,446人)
目標値(R10年度末) 17,500人

Well-Being指標と目標
(市民意識調査)

- 茅野市では、介護・福祉施設のサービスが受けやすい(32.7%)

◆ 施策の進捗状況

進捗評価	担当課所見
B	地域支援事業による地区運動教室の実施に加え、新たな住民集いの場創出の取組としてDXを活用したオンライン講師によるフレイル予防講座(SSAP+)の地域展開を目指し、いきいき健康ルームと中大塩CCでのトライアルを実施しており、今後は全市的な展開を進めていく。 移動支援の利用により、日常生活の維持及び障害児者の外出や余暇活動への支援の充実が図られているが、移動支援は介護員の付添いで、移動手段が徒歩又は公共交通機関に限られ、余暇活動の幅を広げる上では車両移送による外出支援について検討が必要。就労継続支援事業所への通所補助については、対象がB型に限られ、自立支援の目的にそぐわないことから要綱を見直した。

◆ 成果指標の動向

●高齢者の外出支援事業利用件数(件)								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	71	透析、定期受診通院を目的とした利用が大半を占めているが、自宅前仮想停留所や車いす対応などのらざあの利便性が高まったことにより、のらざあ利用者が増加し、外出支援事業として社協が実施している移送サービス利用者数は減少傾向にある。
実績値	2,701	2,238	2,138						
●障害者の移動支援事業利用者数(人)								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		60	65	70	75	75	70	105	余暇活動参加の他、自身の健康維持のための運動(ウォーキング等)や、買い物といった日常生活の維持向上につながる利用を希望しての申請が増加傾向にある。
実績値	57	67	68						
●地区運動教室の開催地区数(地区)								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		60	60	60	60	60	60	87	開催地区にとって地区運動教室の実施が、高齢者の通いの場として定着してきている。
実績値	45	51	52						
●AI乗合オンデマンド交通「のらざあ」の障害者、介護者の延利用者人数(人)								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		17,500	17,500	17,500	17,500	17,500	17,500	130	自宅前仮想停留所の設置、福祉車両の導入により、障害者、要介護者がのらざあを利用しやすくなり、移送手段の改善・充実が図られている。
実績値	16,446	18,560	22,778						

◆ Well-Being指標と目標(市民意識調査)

Well-Being指標	実績値(R7年度)	目標値(R10年度)
茅野市では、介護・福祉施設のサービスが受けやすい	35.0%	32.7%

◆ 各重点施策と成果

生活基盤・セーフティーネットの整備による在宅福祉の推進【高齢者福祉】		(担当課・係名)	保健福祉サービスセンター
主な取組内容と成果	▶福祉21茅野の外出支援ワーキンググループにおいて障害者、要介護者ののらぎあ利用について検討し、自宅前仮想停留所の設置について茅野市新地域公共交通検討会議に意見を提出したことで、自宅前仮想停留所の設置、福祉車両の導入などにつなげた。 ▶外出支援事業は社会福祉協議会に委託して継続して実施した。		
課 題	のらぎあ運行エリア外の地域における外出支援を含む地域課題を、地域ケア会議等の開催により検討していく必要がある。		
今後の方向性	既に自宅前仮想停留所は32か所の登録がされており、障害者、要介護者がのらぎあを利用しやすくなっていることから、今後も移送手段の充実を図っていく。ただし、のらぎあ運行エリア外の地域における外出支援については、引き続き検討していく。		

高齢者の社会参加と福祉的予防の推進【高齢者福祉】		(担当課・係名)	保健福祉サービスセンター
主な取組内容と成果	▶地区運動教室を52ヶ所で開催し、身近な地域での社会参加の場として、介護予防・健康づくり活動につなげている。 ▶生活支援体制整備事業を通じ、生活支援コーディネーター(CSW)と地域住民との連携による身近な地域での集いの場として、新たに「おうちDEサロン」を計画し、18回開催した。 ▶生活支援コーディネーター(CSW)による民生児童委員や地区社協、ボランティア団体等地域住民との関係構築の回数は730回、そのほか、訪問活動等による本人や関係者等との関係構築やニーズの把握をした。 ▶重層的支援体制整備事業を実施し、CSWの訪問(アウトリーチ支援)から重層的支援体制整備事業相談受付に至った人数は14名あった。		
課 題	▶身近な地域での集いの場の創出は、地域の互助の向上も目的としており、自主運営につながる運営支援が必要。 ▶生活支援体制整備事業により生活支援コーディネーターCSWが把握したニーズに対し、地域課題として検討する機会が必要。 ▶山間地域等の介護サービスが届き難い地域のサービス提供体制。 ▶認知症高齢者のピアサポートにつながる取組みが不足している。		
今後の方向性	▶生活支援体制整備事業を通じ把握したニーズに対し、生活支援コーディネーター(CSW)が関係を構築した関係者等の参画・協力により支援体制を構築していく。 ▶介護サービスを中心としたサービス提供体制から、健診受診、フレイル予防の取組みにより、要介護状態に至るまでの期間の延伸につなげていく。 ▶市内関係機関と連携したオレンジカフェの拡充。		

地域を基盤とした自立生活の支援【障害者福祉】		(担当課・係名)	社会福祉課 障害福祉課係
主な取組内容と成果	▶高校(支援学校高等部)卒業前に、各種相談窓口等の情報が得られるよう、学校側への情報提供、アプローチについて、第4次障害者保健福祉計画推進ネットワーク会議で検討を開始した。 ▶障害者の外出時の移動手段としては、ルートが決まっている就労継続支援事業所への通所や受診等には、AIオンデマンド交通「のらぎあ」を利用し、介助者の同伴・付添いが必要な余暇等の外出には、地域生活支援事業(障害者移動移送支援事業の移動支援)の利用と、外出の目的や利用者の状態に合わせた移動手段の選択ができるようになった。 ▶就労支援の強化に向けては、就労継続支援A型等の障害者就労支援施設の利用のみでなく、「諏訪圏域障がい者就業・生活支援センターすわーくらいふ」や、「茅野市生活就労支援センターまいさば茅野市」の就労支援員など、対象者の状態に合わせた、多様な就労支援につなげている。		
課 題	▶高校(支援学校高等部)卒業後の「狭間」だけでなく、一般就労を退職して次(相談等)につながるまで等、様々な情報や制度の「狭間」があり、求められる支援も多岐に渡る。 ▶障害者の特性に応じた就労状況の把握だけでなく、就労先の合理的配慮の理解度や、特性に応じた対応力を底上げする企業等への支援が充実しなければ、就労支援の強化は難しい。		
今後の方向性	▶第4次障害者保健福祉計画推進ネットワーク会議を通して、「年齢の狭間」、「一般就労と福祉的就労の狭間」等に関する課題と必要な支援を明確にしていく。 ▶合理的配慮や特性に応じた対応について、企業等への周知及び研修等の機会について検討。		

1 3つのまちの姿
安心して快適に暮らせるまち

2 関係分野(基本計画)
地域福祉

SDGs



目標3

目指すまちの姿

- 住み慣れた地域でその人らしく、自立し、安心して住み続けることができるまち
- 公的なサービスと住民の自発的な活動が協働し、地域の課題解決に取り組む、豊かな支え合いがあるまち

実現したい交流
大切にしたい交流

- 年齢や性別、障害の有無などに関係なく、互いを認め合い、誰もが活躍できる地域住民同士の交流

成果指標と目標

- 保健福祉サービスセンター職員などによる訪問件数
(現状 R5年度 2,085件) 目標値(R10年度末) 2,200件
- 保健福祉サービスセンターによる地域ケア会議*の開催回数
(現状 R5年度 4回) 目標値(R10年度末) 12回
- 個別避難計画策定件数(現状 R5年度 1件)
目標値(R10年度末) 50件

Well-Being指標と目標
(市民意識調査)

- 茅野市では、介護・福祉施設のサービスが受けやすい(32.7%)
- 茅野市は、防災対策がしっかりしている(26.4%)

◆ 施策の進捗状況

進捗評価	担当課所見
S	令和7年度から、複雑化、複合化した地域住民の課題に対応するため、「断らない相談支援」、「参加支援」、「地域づくりに向けた支援」を、従来の機能を活用しながら一体的に実施する「重層的支援体制整備事業」を開始しており、保健福祉サービスセンターでは、多機関の協働による支援体制の強化を図っている。

◆ 成果指標の動向

●保健福祉サービスセンター職員などによる訪問件数(件)								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	107	保健福祉サービスセンターの職員の意識として、なるべく外に出て実際の相談者の生活実態等を把握するために積極的に訪問をしていくという意識が高まってきていると感じる。
実績値	2,085	2,188	2,343						

●保健福祉サービスセンターによる地域ケア会議の開催回数(回)									単年目標
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		12	12	12	12	12	12	100	重層的支援体制整備事業の実施により 重層的支援会議の開催が各保健福祉 サービスセンターで浸透してきている。
実績値	4	8	12						

●個別避難計画策定件数(件)								累計目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		10	15	20	30	40	50	213	それぞれの保健福祉サービスセンターで 少しずつではあるが着実に件数を伸ばし ている。
実績値	1	18	32						

◆ Well-Being指標と目標(市民意識調査)

Well-Being指標	実績値(R7年度)	目標値(R10年度)
茅野市では、介護・福祉施設のサービスが受けやすい	35.0%	32.7%
茅野市は、防災対策がしっかりしている	36.1%	26.4%

◆ 各重点施策と成果

日常生活支援の充実・地域の支え合いの促進		(担当課・係名)	保健福祉サービスセンター・全係
主な取組内容と成果	令和7年度から開始した重層的支援体制整備事業により、相談支援体制強化のための新たな庁内情報共有ツールの運用を実施し、庁内関係部署や社協との連携強化に取り組み、成果指標として掲げた目標をひと通り達成することができた。		
課 題	相談件数の実績値が減少しているが、相談内容は年々複雑化複合化しており、1件あたりに多大な時間を要する解決困難な事例は減っていない状況である。		
今後の方向性	超高齢化・人口減少社会に向けて、職員の業務効率化に取り組むとともに今後の保健福祉サービスセンターのあり方についても検討していく必要がある。		

災害時の対応の拡充		(担当課・係名)	保健福祉サービスセンター・福祉21推進係
主な取組内容と成果	令和7年度は新規に14件の個別避難計画を作成した。個別避難計画は一人ひとりに対し、身体状況等具体的なヒアリング、支援者の確保と同意、多職種多機関との連携、実効性の検証等を行いながら作成する必要があり、1件あたりに多大な時間をかけながらも着実に作成を進めている。		
課 題	避難行動要支援者名簿に記載されている人の中から、個別避難計画を作成すべき人をハザードマップ上の居住地を加味した上で優先的に選別し、個別避難計画作成の加速化を進める必要がある。		
今後の方向性	個別避難計画の作成には、区・自治会の協力が不可欠であるが、ある程度行政主導で進めなければ加速化が図れないこともあり、個別避難計画作成の効率化の視点から、システム化を検討していく。		

3つのまちの姿
安心して快適に
暮らせるまち

関係分野(基本計画)
3 健康・食育

SDGs



目標3

目指すまちの姿

- 「市民の健康長寿の更なる延伸」を目指し、からだもこころも元気で豊かなまち
- 「ちのしで育てる元気で豊かな人づくり・地域づくり」を基本理念に地域の食文化を守り伝え、望ましい食生活で健康長寿を目指し、食でコミュニケーションアップを図るまち

実現したい交流
大切にしたい交流

- 医師会(諏訪中央病院含む)、歯科医師会、薬剤師会、学校関係者などの各分野の専門家との連携
- 食に関する専門団体の連携

成果指標と目標

- 大腸がん検診受診率(現状 R5年度 5.4%)
目標値(R10年度末) 7%
- Ⅱ度高血圧以上の者(160/100mmHg以上)の割合(現状 R5年度 9.0%)
目標値(R10年度末) 7.1%
- 茅野市の10～30歳代の自殺率(現状 R5年度 22.3/10万人あたり)
目標値(R9年度末) 15.4/10万人あたり
- 朝食を食べる人(小学5年生、中学2年生、20～30歳)の割合(現状 R5年度 小学5年生89%、中学2年生91%、20～30歳代84%)
目標値(R9年度末) 小学5年生・中学2年生95%、20～30歳代85%

Well-Being指標と目標
(市民意識調査)

- 私は、身体的に健康な状態である(61.2%)
- 私は、精神的に健康な状態である(63.5%)

◆ 施策の進捗状況

進捗評価	担当課所見
B	大腸がん検診受診率については、令和7年度時点で令和10年度末の目標値を達成している。諏訪中央病院と連携し、がん検診の早期受診の重要性を市民に伝え、更なる受診率の向上を図っていきたいと考える。 特定健診の受診率は増加傾向にある一方、高血圧の問題が解決していない。また、若い世代で肥満が増加していることなど、課題が多い状況となっている。引き続き、生活習慣病予防のポピュレーションアプローチに取り組んで行く。 食習慣の乱れは、生活習慣病につながってしまうため、朝食を食べて生活リズムを整えることは重要となってくる。また、年代によって食習慣の問題が違うため、ライフステージごとアプローチする必要がある。

◆ 成果指標の動向

●大腸がん検診受診率(%)								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		5.7	6.0	6.4	6.7	7.0	7.0	117	主に諏訪中央病院との連携による各種 取組により受診者数が増加している。
実績値	5.4	6.6	7.0						

●Ⅱ度高血圧以上の者(160/100mmHg以上)の割合(%) ※減少目標								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		8.6	8.2	7.8	7.4	7.1	7.1	91	特定健診受診率の増加に伴い、未検診者で血圧数値の悪い方も受けたため横ばいとなった。早期発見には寄与している。
実績値	9.0	8.9	9.0						

●茅野市の10～30歳代の自殺率(10万人あたり) ※減少目標								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		20.5	19.2	17.9	16.6	15.4	15.4 (R9年度)	103	関係団体と連携し、自殺防止対策を継続して実施したことによる。
実績値	22.3	21.2	18.7						

●朝食を食べる人(小学5年生、中学2年生、20～30歳)の割合								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		90	91	92	93	95	小5…95 中2…95 20～30歳…85 (R9年度)	101	継続して実施している小中学校における食育の取組や市民全体に対するポピュレーションアプローチにより、朝食を食べる大切さが少しずつ浸透して増加した。
実績値	小5…89 中2…91 20～30歳…64	小5…90	92						

◆ Well-Being指標と目標(市民意識調査)

Well-Being指標	実績値(R7年度)	目標値(R10年度)
私は、身体的に健康な状態である	58.8%	61.2%
私は、精神的に健康な状態である	67.4%	63.5%

◆ 各重点施策と成果

がん検診の受診率向上、生活習慣病の重症化予防【からだの健康】		(担当課・係名)	健康づくり推進課 健康総務係、健康推進係
主な取組内容と成果	がん検診の受診率向上において、特に大腸がん検診について取り組みを進めている。主な取組みとしては、諏訪中央病院と連携し、医師が地域等へ出向く出張講座や病院祭、健康フェスタでがん検診に関するブースを設置し受診勧奨を行った。また、11月～1月にかけて、追加検診を実施し、受診機会の拡大を図った。受診者数が前年度比で約300人増加した。特定健診の受診率向上の取組として、医療機関と連携しみなし健診の拡充、ハイリスク者への訪問を実施している。高血圧の資料を作成し、ポピュレーションアプローチを実施。広報誌に高血圧情報を掲載した。高血圧管理台帳、糖尿病管理台帳を作成し未治療者、治療中断者への保健指導を行っている。		
課 題	大腸がん検診受診者数は増加しているが、リピーター数が横ばいであるため、継続した受診の必要性を多くの方に知っていただく必要がある。また、胃がんや肺がんなど受診率が上がっていないことも課題である。 特定健診受診率は上がってきているが、高血圧Ⅱ度以上の割合は減少していない。重症化予防のためにも効果的な保健指導やポピュレーションアプローチが必要である。		
今後の方向性	メディアと自治体が協力して受診率向上を目指す「希望の虹プロジェクト」へ参加し周知を図っていく。また、医師による講演や冬季の検診追加も継続実施していく。 生活習慣病重症化予防の視点からも連続未受診者への受診勧奨、病院定期受診者の受診勧奨により一層力を入れて、受診率向上に努める。広報、ライン等を活用し正しい高血圧情報の配信に努める。効果的な保健指導ができるようスタッフの力量形成に努める。		

「生きる」自殺対策の取組の推進【こころの健康】		(担当課・係名)	健康づくり推進課・健康総務係
主な取組内容と成果	臨床心理士による対面型相談と市内の企業でのメンタルヘルス講座を実施。また、茅野市職員(令和7年度は係長職)を対象に自殺対策庁内連携会議を行い、事例検討を通じてゲートキーパーの役割等について共有する機会を設けた。		
課 題	男性の自殺者数が増加している。また、被雇用、勤め人の自殺割合が高い傾向にある。自殺者の原因、動機として、健康問題が最も多く、経済・生活問題、勤務問題、家庭問題も多い。		
今後の方向性	自殺者数の更なる減少を目指して、庁内外の各種団体と連携し対策の強化に努めていく。また、特に被雇用、勤め人の自殺者数を増やさないためにも、臨床心理士によるメンタルヘルスを継続していく。		

健康寿命を目指す望ましい食生活の実践		(担当課・係名)	健康づくり推進課・健康推進係
主な取組内容と成果	広報で給食レシピの紹介、ビーナネットで動画を配信し、多くの市民に見てもらうことができた。幼少期からの食習慣が大切なので、乳幼児健診等で保護者へ望ましい食生活について啓発している。減塩商品のPR(高血圧対策) 健康づくりポイント事業の協賛店を追加(1食で野菜が120g以上のメニュー)		
課 題	食習慣の乱れは、生活習慣病につながってしまうため、すべての年代で、生活習慣病予防のための食生活を実践する必要がある。 年代によって食習慣の問題が違うため、ライフステージごとアプローチする必要がある。 食の大切さを情報発信する方法を考える必要がある。		
今後の方向性	広報やホームページ等を活用し、生活習慣病の予防や、重症化予防のための、望ましい食生活の具体的な方法を伝えていく。 一人暮らしの方が増えている状況もあり、手作り料理でなくてもバランスのとれた食を選択するための支援をしていく。 乳幼児健診等で保護者の方へ望ましい食生活について伝えていく。		

1 3つのまちの姿
安心して快適に
暮らせるまち

4 関係分野(基本計画)
地域医療

SDGs



目標3

目指すまちの姿

●誰もが身近なところで安全かつ質の高い医療を受けることができるまち

実現したい交流
大切にしたい交流

●医療関係者、県、市町村、関係団体などの連携

成果指標と目標

●茅野市は、医療機関が充実している。
(※「Well-Being指標と目標」と共通)
●諏訪中央病院と医療機関同士だけでなく、訪問看護師やケアマネージャーなどの関係機関と緊密な情報の共有化を進める。
また、DXを活用したネットワークの構築を進める。

Well-Being指標と目標
(市民意識調査)

●茅野市は、医療機関が充実している(51.6%)

◆ 施策の進捗状況

進捗評価	担当課所見
S	医療機関数については、新たに開院した病院もあるが、閉院した病院もあるので総数に大きな変動はない。 小児オンライン相談サービスの登録者数や相談件数も増加しており、徐々にではあるが浸透してきていると考える。 引き続き、目標値を上回るように努めたい。

◆ 成果指標の動向

●茅野市は、医療機関が充実している								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		51.6	51.6	51.6	51.6	51.6	51.6	111	医療機関数については大きな変動はなく、医療機関を受診できる環境は比較的整っていることから。
実績値	51.6	52.9	57.4						

◆ Well-Being指標と目標(市民意識調査)

Well-Being指標	実績値(R7年度)	目標値(R10年度)
茅野市は、医療機関が充実している	57.4%	51.6%

◆ 各重点施策と成果

医療提供体制の充実	(担当課・係名)	健康づくり推進課・健康総務係保険課・国保年金係
主な取組内容と成果	▶小児オンライン相談サービスの周知として、乳幼児健診や乳幼児訪問の際、案内チラシを配布。登録者数は前年度から1,022人増加した(前年比約172%増)。また、相談件数としては、月平均46.5件の相談があった。 ▶令和7年度に予算化した、諏訪中央病院組合に係る運営費等の繰出金の他に、当該組合経費に影響した物価高及び人件費高騰を抑制する目的で、「物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金」を活用し、負担金を追加投入した。	
課 題	▶小児オンライン相談サービスの認知度を更に高め、浸透させる必要がある。 登録はしたものの、実際に「どのような症状で相談すべきか」を迷い、利用に至らない層も存在するのではないかと推測する。 ▶人口減少に加え、診療報酬の伸びが物価高や人件費の高騰に追いつかない状況が今後も見込まれる中、病院自体の収益力には限界があることから、医療体制の維持継続については深刻な状況が続く。このため、今後も、運営費にかかる構成3市村の負担金は増加の一途を辿ると予測している。	
今後の方向性	▶医療機関への受診を迷う場合の相談先の一つとして活用していただけるようチラシ配布の他、デジタル媒体等も活用し更なる周知を図っていく。 特に感染症流行期や医療機関が休みとなるお盆や年末年始等の前にお知らせすることも有効であると考えている。 ▶国・長野県の策定する新たな地域医療構想を踏まえ、構成市村とともに地域医療体制構築のための検討の場を設け、諏訪中央病院の役割と機能について将来の在り方を検討する。	

1

3つのまちの姿
安心して快適に
暮らせるまち

5

関係分野(基本計画)
環境・衛生

GX・ゼロカーボン

SDGs

3

6

7

8

12

13

17

目標3

目指すまちの姿

- 人と自然が共生し、自然の恵みを受用することができるまち
- 人の生活や活動が環境へ及ぼす影響を軽減し、安心して暮らすことができるまち
- 郷土の自然との共生をめざした循環型社会の形成を推進するまち

実現したい交流
大切にしたい交流

- 地域住民、他自治体、民間事業者などとの連携による生活環境の保全、サーキュラーエコノミーを視野に入れた3R(発生抑制、再使用、再利用)の推進

成果指標と目標

- 支援団体による森林整備の実施面積(現状 なし)
目標値 75,000㎡(年間15,000㎡)
- 営農型太陽光発電、小水力など新たな手法による再エネ推進
目標値(～R11年度) 設置容量合計28,050kW
- 可燃ごみ量(現状 R5年度 22.6%削減(平成17年度比))
目標値(R11年度) 30%削減(平成17年度比)
※目標の年度は分野別計画と整合

Well-Being指標と目標(市民意識調査)

- 茅野市では、身近に自然を感じることができる(93.7%)
- 茅野市の空気や水は、澄んでいてきれいだと感じる(89.5%)
- 自宅の近辺では、騒音に悩まされている(11.4%)
- 茅野市は、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組が盛んである(48.9%)

◆ 施策の進捗状況

進捗評価	担当課所見
C	環境に関連する指標は環境に関連する法令、及び携わる市民や地域の状況に大きく左右されるので、慎重な進め方が求められます。進捗状況が低い状況ではありますが、市民の理解を第一に考え、目標達成に向けて施策を進めていきたいと考えます。

◆ 成果指標の動向

●支援団体による森林整備の実施面積(㎡)									累計目標
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	75,000	29	信州の森作り事業補助金に関連して、令和6年度に地域振興局の林務課の確認が行われた際、森林が大きく育っており、主伐(皆伐)の時期が来ていると判断され、間伐補助金の申請が困難になっています。支援団体では間伐を中心とした森林整備を行っているため、主伐は行いません。散策路に関する危険木処理を行う面積にとどまっているため、整備面積の大きな増加が見込めない状況です。
実績値	なし	2,900	4,275						

●営農型太陽光発電、小水力など新たな手法による再エネ推進(kw)									累計目標
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		5,610	5,610	5,610	5,610	5,610	28,050	0	営農型太陽光発電や小水力などの新たな手法による再エネは、導入が難しく調査研究に時間を掛けているところです。
実績値	なし	6	0						

●可燃ごみ量 平成17年度比削減率(%)									累計目標
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		22.8	23.7	25.7	26.1	30.0	30.0	103	人口減少の影響もあり、排出される可燃ごみの総量については、概ね計画通りに減少が進んでいる。
実績値	22.6	21.8	22.9						

◆ Well-Being指標と目標(市民意識調査)

Well-Being指標	実績値(R7年度)	目標値(R10年度)
茅野市では、身近に自然を感じることができる	91.4%	93.7%
茅野市の空気や水は、澄んでいてきれいだと感じる	93.6%	89.5%
自宅の近辺では、騒音に悩まされている	11.0%	11.4%
茅野市は、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組が盛んである	55.8%	48.9%

◆ 各重点施策と成果

良好な自然環境の確保(環境保全)		(担当課・係名)	環境課 環境保全係
主な取組内容と成果	市民参加による山岳の美化活動、里山の森林保全、里地の外来種駆除など継続的に取り組みを行った。地域の景観保全等のために条例を改正し、野立て太陽光発電設備の設置を抑制している。市民の森及び永明寺山を活用した森林体験を行っている。参加者は年々増加しており、参加意欲が向上している。特に永明寺山では学校との連携を行っており、里山における作業体験や環境学習が定着している。		
課 題	各団体の会員の高齢化や担い手不足等が深刻化している。会の中心となっている方が固定化されており、会と一緒に年を重ねてしまっている状況。活動団体を長期的に維持するには担い手の新規参入が欠かせない。		
今後の方向性	主催する団体の会員が参加者と共に楽しめるような内容を検討し、継続的な情報発信に取り組むことで、環境への意識向上を狙い、イベントを活性化することが各会の会員増加等に繋がるよう進めていく。 また、里山に関する各団体については、既存の事業について連携の可能性を模索していく。		

低炭素型まちづくりの推進(ゼロカーボン推進)		(担当課・係名)	ZC推進室 ZC推進係
主な取組内容と成果	2025年ゼロカーボンとは国が国際的にコミットしていることであり、それぞれの基礎自治体が行わなければならないものである。しかし脱炭素は一朝一夕で成し得るものではないため、地道な取り組みが必要である。今は新たな手法の再エネ方法について調査研究を行っている。		
課 題	寒冷地である茅野市では温暖化に対する危機感が乏しい。環境学習を通して機運の醸成を図る。脱炭素インフラ整備には多額の費用が掛かるため、民間や国の補助金を活用する。民間の環境団体と協力し、さらに八ヶ岳西麓の三市町で事業を行なう。		
今後の方向性	「茅野市ゼロカーボン戦略」に掲げられた項目を実践していく。 屋根載せ太陽光の普及 EV 自動車の普及と充電機の整備 ソーラーシェアリング、PPA の実践 現在出来ることから着手し、水素や新しいエネルギーについてもアンテナを高くし取り組んで行く。 市民のゼロカーボン推進に対する意識向上の醸成に取り組む。		

安全な生活環境の確保(公害衛生)		(担当課・係名)	環境課 公害衛生係
主な取組内容と成果	軽微な公害苦情等については、即時解決させ、長引きそうなものについても、年度内解決を目標に取り組んでいる。		
課 題	人口減少による空き家や空き地などの所有者が不在の土地を発生源とする苦情の増加が課題となっている。また、居住地と農地との混在による野焼きなどに対する苦情も多い。騒音、大気汚染については、法的な規制はクリアしているが、市民感情で苦情を相談されるケースがほとんどである。		
今後の方向性	近所同士のトラブルにおいては、申立者の言い分を聞きつつ、実際に状況確認を行い、公平性のある対応にあたる。 空き家等については、他部署と連携し対応にあたる。 苦情が多いと市民満足度が下がるため、早期解決を図っていく。		

循環型社会の形成(一般廃棄物処理)		(担当課・係名)	美サイクルセンター 業務係
主な取組内容と成果	・環境自治会連合会や美サイクル茅野と連携した廃棄物の適正排出への啓発活動や市内美化活動を実施し、分別への意識啓発を推進した。 ・不燃物処理場廃止後の事後処理として、土壌入替を実施し、敷地内の土壌の浄化を図った。 ・生ごみ処理機への補助金交付事業の実施により、生ごみの搬入量の削減を図った。 ・分別アプリの利用促進により、適正な分別に関する周知を行った。		
課 題	廃棄物の減量について、分別の意識定着もあり、ある程度は進んできた(直近10年間で約10%の削減)が、持ち込まれる可燃ごみの内訳をみると、本来は資源ごみであるはずの紙類が3割、プラ類が2割含まれるなど、まだごみ減量の余地は十分にあると感じる。		
今後の方向性	更なるごみ減量のための施策として、家庭系ごみの有料化について検討をするため審議会を組織し、導入の可能性や制度設計について具体的な検討を行っていく。導入の方向で進められた場合、ごみの排出に対する経済的な負担をごみ減量の意識に繋げていきたい。		
◆ 関連市民団体等の主な意見及び市の対応等			
関連市民団体等名称	茅野市環境審議会		
主な意見	環境問題に対する意識が社会の中で高まっている。市民から広く意見を求め、環境の保全、及び再生可能エネルギーの有効性が高まる茅野市を目指してください。		
市の考えや対応など	茅野市環境基本計画の目標値達成を目指し、環境に係る市民の幸福度・生活満足度が高まる様な施策の推進に努めます。		

1 3つのまちの姿
安心して快適に
暮らせるまち

6 関係分野(基本計画)
道路・河川

SDGs



目標3

目指すまちの姿

●安全で快適な災害に強い道路・河川の整備されたまち

成果指標と目標

●レベルⅢ判定の橋梁数(現状 R5年度末 18)
目標値(R10年度末) 5
●改修河川数 目標値(R10年度末) 4

実現したい交流
大切にしたい交流

●快適に移動できる都市基盤を整備し、安全で安心な市内内外の
人の交流を促進します。

Well-Being指標と目標
(市民意識調査)

●茅野市(行政)は、地域のことを真剣に考えていると思う(29.0%)
●茅野市は、防災対策がしっかりしている(26.4%)

◆ 施策の進捗状況

進捗評価	担当課所見
C	・橋梁長寿命化計画に基づくレベルⅢ判定の橋梁の修については、計画どおりに進捗している。今後も計画的に対策を進めるとともに、定期点検により新たにレベルⅢ判定となる橋梁との優先順位を精査しながら、必要に応じて計画の見直しを行っていく。 ・河川自然災害防止事業に基づく河川の改修については、関係機関との協議に時間を要していることから、現時点で事業着手に至っていない状況である。今後は、進捗状況を踏まえ計画内容の見直しを行いながら、早期の事業着手に向けて取り組んでいく。

◆ 成果指標の動向

●レベルⅢ判定の橋梁数(橋) ※減少目標									累計目標
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		16	11	9	6	5	5	100	・変動なし。
実績値	18	16	11						

●改修河川数(5年間累計)(河川)									累計目標
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		0	1	1	1	1	4	0	・関係機関との協議に時間を要し、事業着手できていないため。
実績値	0	0	0						

◆ Well-Being指標と目標(市民意識調査)

Well-Being指標		実績値(R7年度)	目標値(R10年度)
茅野市(行政)は、地域のことを真剣に考えていると思う		28.7%	29.0%
茅野市は、防災対策がしっかりしている		36.1%	26.4%

◆ 各重点施策と成果

安全・快適な道路・河川の構築(管理対策)		(担当課・係名)	建設課建設係
主な取組内容と成果	・道路橋メンテナンス事業において、レベルⅢ判定を受けた5橋の補修工事を実施した。このことにより、橋梁の安全性の向上が図られ、安全・安心なインフラ施設の提供につながった。 (跨線橋、4-949号一の橋、4-1151号二の橋、槻木下大橋、大沢大橋) ・河川自然災害防止事業については、関係機関と協議に時間を要したことから、事業着手ができていない。		
課 題	・当市の管理する橋梁数は、486橋と非常に多く、今後、老朽化が進行に伴い維持管理・更新に係る事業費の増大が見込まれている。このため、橋梁長寿命化計画を策定し、計画的な修繕による事業費の平準化に取り組んでいる。しかしながら、近年の物価高騰や労務単価の上昇により、事業費は増加傾向にある。 ・河川自然災害防止事業については、関係機関と協議に時間を要していることから、現時点において事業着手に至っていない。		
今後の方向性	・道路橋メンテナンス事業費の抑制を図るため、既設橋のラインニングコスト、安全性および利用状況を踏まえながら、橋梁の撤去、集約化および更新について詳細な検証を進めていく。 ・河川自然災害防止事業については、関係機関との協議が円滑に進むよう調整・働きかけに努めるとともに、事業の遅れを取り戻すため、適宜事業計画の見直しを行いながら、早期着手に向けて取り組んでいく。		

① 3つのまちの姿
安心して快適に
暮らせるまち

⑦ 関係分野(基本計画)
上下水道

SDGs



目標3

目指すまちの姿

- 安全で良質な水の提供が続けられるまち
- 次世代が下水道を安心して使い続けられるまち

実現したい交流
大切にしたい交流

- 地下水を水源とするきれいな水が、訪問先、移住先などに茅野市を選ぶ要素の一つとなり生み出される人の交流

成果指標と目標

- 上水道の基幹管路耐震化率
(耐震管の延長(m)/基幹管路延長(m))
(現状 R5年度 15.5%) 目標値(R10年度末) 25%
- 下水道の管路改築更新対策延長(現状 R5年度 5.7km)
目標値(R10年度末) 7.5km

Well-Being指標と目標
(市民意識調査)

- 茅野市の空気や水は、澄んでいてきれいだと感じる(89.5%)
- 茅野市は、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組が盛んである(48.9%)

◆ 施策の進捗状況

進捗評価	担当課所見
B	・「水道・下水道事業の健全化経営の維持」について、下水道事業の使用料改定に向けて審議会に諮問するための準備が整った。 ・「災害に強く強靱でしなやかな水道」について、成果指標の上水道の基幹管路耐震化率は、目標値を若干下回っているが概ね計画的に進めることができた。基幹管路以外についても、老朽化した御狩野配水池の更新に着手した。自然災害時における給水活動体制の確保については、引続き体制確立に向けて取り組んでいく必要がある。 ・「快適な暮らしを実現、持続する下水道」について、成果指標の下水道の管路改築更新対策延長は、目標値を上回るペースで実施できている。引き続き改築更新を進める上で、交付金を活用するために水の官民連携(ウォーターPPP)の導入に向けて取り組んでいる。未接続家屋対策については、引続き取り組んでいく必要がある。雨天時浸入水対策については、計画を策定したことから、今後は計画に基づき対策を実施していく必要がある。

◆ 成果指標の動向

●上水道の基幹管路耐震化率(耐震管の延長(m)/基幹管路延長(m)) (%)								累計目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		17.0	18.6	20.2	21.8	23.4	25.0	92	漏水が発生する老朽管路の更新も同時に図る必要があり、緊急性を考慮しながら優先順位を決めて実施した。
実績値	15.5	16.0	17.2						

●下水道の管路改築更新対策延長(km)									累計目標
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		6.0	6.3	6.6	6.9	7.2	7.5	114	交付金については補正予算の追加要望 を行い進捗の前倒しを図った。また、枝 線である住宅地の管きよについても老 朽化対策工事を実施した。
実績値	5.7	6.3	7.2						

◆ Well-Being指標と目標(市民意識調査)

Well-Being指標	実績値(R7年度)	目標値(R10年度)
茅野市の空気や水は、澄んでいてきれいだと感じる	93.6%	89.5%
茅野市は、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組が盛んである	55.8%	48.9%

◆ 各重点施策と成果

水道・下水道事業の健全な経営の維持		(担当課・係名)	上下水道課庶務経営係
主な取組内容と成果	財政推計の結果、上水道事業は令和11年度から、下水道事業は令和9年度から赤字になる見込みとなった。上水道事業はまだ若干の余裕があることからここでの改定は見送るが、下水道事業は使用料改定が避けられないことから、令和9年4月の改定に向けて準備を進めた。上下水道事業運営審議会を立ち上げ、使用料改定を審議してもらう環境を整え、審議会にかけると使用料改定案及び資料の作成をした。		
課 題	上水道、下水道ともに使用料金を改定しないと施設の管理・更新ができず、生活インフラを維持していくことができなくなってしまうため、改定が必要である。一方、改定すると市民生活や企業活動に大きな影響が出ることになる。上水道・下水道事業の置かれている状況と、使用料金改定の必要性について理解してもらうことが、一番の課題となる。		
今後の方向性	下水道使用料については、令和8年4月に審議会に諮問をした。令和8年7月を目途に答申を得て、令和8年9月定例会に使用料改定の条例改正案を上程し、令和9年4月をもって改定する予定。上水道料金については、令和8年・令和9年でアセットマネジメントと基本計画の見直しを実施する。その結果を踏まえて令和10年度に改定の検討をし、必要なら最短で令和11年度に改定をする。		

災害に強く強靱でしなやかな水道		(担当課・係名)	上下水道課上水道整備係
主な取組内容と成果	北大塩中区配水池と埴原田配水池を結ぶ管路の更新事業がR7で完了した。また、横河川を横断する水管橋についても、県道橋の新設に伴い添加する形での更新を行い耐震性も向上された。これにより、中区配水池から埴原田配水池への総水量は20t/h増量した。防災拠点配水管整備として中央病院・運動公園までの管路耐震化も図っている。R7は栗沢区内の管路の耐震化と中央病院への専用管設置を行いR8も継続する。		
課 題	資材費の高騰、材料不足が深刻化しており、費用の増大が見込まれる。また、基幹管路の耐震化の実施箇所が市街地へと移動してきたことから、交通など住民への配慮が必要となり、今後の計画に影響が生じることが懸念される。		
今後の方向性	中央病院への専用管の設置、防災拠点である運動公園まではR11で、また、埴原田配水区域の市役所及び永明小中学校への耐震化についてはR12までに完了させたい。		

快適な暮らしを実現、持続する下水道		(担当課・係名)	上下水道課下水道整備係
主な取組内容と成果	①未接続家屋について、接続状況の再調査を実施した。未接続家屋については接続の啓発を継続しているが、未接続家屋の正確な管理を行うため全体確認を行った。 ②ストックマネジメント計画に基づき改築工事を実施した。交付金については低内示であったが、追加要望を実施し工事の進捗を図った。 ③雨天時浸入水対策計画を策定。今後対策を進めるうえでの方向性を示すことが出来た。		
課 題	①未接続家屋の原因としては、年齢や経済的理由によるものが多いため、根本的な原因が解決しない限り未接続の解消は困難である。 ②改築工事の優先度が高い現在の工事箇所は、汚水量が多く管径が大きいため工事費が高くなり、小口径の汚水管に比べて整備延長が伸びない。また、交付金が要望額に対して低内示であるため計画的な工事が困難である。 ③雨天時浸入水については公共下水道からの浸入の他、排水設備の破損、雨樋のご接続等様々な原因が考えられるため優先順位をつける中での対策が求められる。		
今後の方向性	①未接続家屋については、問題解決に向けて有効な手段についての検討及び情報収集を行う中で今後も未接続家屋について啓発を実施する。 ②交付金については、引き続き国の補正予算の動向を見ながら追加要望をして計画的な改築工事を目指す。また、ウォーターPPPの導入が改築工事関わる国費要件となることから、その導入に向けた取り組みを引き続き実施する。 ③策定した計画を基に詳細調査を実施。公共下水道については下水道施設の改築・修繕に併せた対策を行い、排水設備については原因の特定を行った後、原因者に対して改修を働きかける。		

1

3つのまちの姿
安心して快適に
暮らせるまち

8

関係分野（基本計画）
住環境

SDGs

1-8 住環境

目標3

目指すまちの姿

- 公園が、人々のレクリエーション空間となるほか、良好な都市景観の形成、都市環境の改善、都市の防災上の向上、生物多様性の確保、豊かな地域づくりに資する交流空間のまち
- 市民、事業者、行政など、すべての人がバリアフリーの必要性を理解し、高齢者、障害者などをはじめとするあらゆる人々が暮らしやすいまち
- 空き家に関する施策を総合的かつ計画的に推進することで、市民の生活環境の保全と空き家の活用を促進するまち

実現したい交流
大切にしたい交流

- 適切な公園の維持管理を行い、快適な憩いの場をつくり、市民の交流を生み出します。
- 市民、事業者等と一体となって、あらゆる人が暮らしやすいバリアフリー化に取り組みます。
- 茅野・原宅地建物取引業協会をはじめとした不動産・建築関係事業者や地域などと連携し、空き家の利活用を促進することで、関係人口・交流人口の増加を目指します。

成果指標と目標

- 改修・更新を実施した公園施設の割合（現状 R5年度 0%）
目標値（R10年度末） 15%
- 特定事業に指定された道路のバリアフリー化の達成状況（現状 R5年度 5%）
目標値（R10年度末） 100%
- 空き家住宅改修実施件数（現状 R5年度 年間5件）
目標値（R10年度末） 年間10件

Well-Being指標と目標（市民意識調査）

- 茅野市には、まちなか・公園・川沿い等で、心地よく歩ける場所がある（56.4%）
- 茅野市には、自慢できる都市景観がある（50.8%）

◆ 施策の進捗状況

進捗評価	担当課所見
C	公園施設の更新や道路のバリアフリー化など、安全・安心な生活環境の整備が着実に進んでいる。一方で、公園施設の更新需要の集中や、国・県事業の進捗に左右される道路整備、空き家所有者ニーズの多様化など、課題も見られる。今後は、計画的な施設更新や関係機関との連携強化に加え、地域との連携による空き家対策の充実を図り、持続可能な住環境づくりを進めていく必要がある。

◆ 成果指標の動向

●改修・更新を実施した公園施設の割合(%)								累計目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		1.0	5.0	10.0	12.0	15.0	15.0	98	令和7年度より国庫補助金事業を活用し、公園施設(複合遊具、転落防護柵、照明灯)の更新などが実施された。
実績値	0.0	0.8	4.9						

●特定事業に指定された道路等のバリアフリー化の達成状況(%)								累計目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		30.0	30.0	40.0	60.0	90.0	100	70	・国・県の事業の進捗状況によって、実績値は大きく左右される。 ・R8に駅前から市役所までの無電柱化事業1工区が終了予定。 ・市役所西から市役所東までの無電柱化事業2工区は、R8から詳細設計を実施予定。 ・国道20号の拡幅事業は、用地交渉中。
実績値	5.0	13.0	21.0						

●空き家住宅改修実施件数(件)								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		10	10	10	10	10	10	40	改修補助については、昨年度と比較して割合が減少しているが、空き家の利活用だけでなく、相続後の家財整理や老朽化した空き家の解体など、所有者が抱える課題が多様化しており、家財処分や解体補助の活用が増加している。併せて、不安定な国際情勢により資材費が高騰していることも影響していると思われる。
実績値	5	10	4						

◆ Well-Being指標と目標（市民意識調査）

Well-Being指標	実績値(R7年度)	目標値(R10年度)
茅野市には、まちなか・公園・川沿い等で、心地よく歩ける場所がある	56.7%	56.4%
茅野市には、自慢できる都市景観がある	52.4%	50.8%

◆ 各重点施策と成果

公園の安全・安心の確保		(担当課・係名)	都市計画課・公園景観係
主な取組内容と成果	公園施設長寿命化計画に基づき、老朽化した複合遊具及び転落防護柵の更新(弓振公園)・転落防護柵及び照明灯の更新(永明寺山)・フェンス修繕(花時公園)を実施しました。計画的に公園施設の更新・修繕により、公園利用者の安全・安心の確保するとともに、事後保全から予防保全への転換による将来的な維持管理コストの縮減や施設の長寿命化を図りました。		
課 題	長寿命化計画に策定されていない、街区公園の施設についても計画的に修繕・更新・撤去などの対策が必要。また、植栽された樹木が大きくなり、倒木の危険性や周辺環境への影響が増大している。		
今後の方向性	公園施設長寿命化計画の対象としていない、街区公園等について、ライフサイクルコストの縮減、予算の平準化を図るため、街区公園等施設の修繕・更新計画を作成していく。併せて公園の樹木診断も計画していく。		

バリアフリー化の推進		(担当課・係名)	建設企画課・建設企画係
主な取組内容と成果	重点整備地区内において基準に適合した道路の拡幅整備など、バリアフリー化された道路のネットワーク形成を進める。 県事業で茅野停車場八子ヶ峰公園線(駅前)の無電柱化を進めている。		
課 題	国・県の事業の進捗状況によって、大きく左右される。		
今後の方向性	工事着手までは、成果や影響が形となって見えにくい、引き続き国・県への協力、調整を図る。		

空き家の増加抑制と活用の促進		(担当課・係名)	都市計画課・住宅係
主な取組内容と成果	空き家対策については、空き家の利活用促進及び管理不全空き家の発生抑制を目的として、主に「空き家バンクの運営」、「空き家対策促進事業補助金」、「空き家相談会」の3つの取組を実施した。空き家バンクについては、これまで市場に出ていなかった空き家について、利活用に向けた相談や登録につながるケースが見られたほか、移住希望者等からの問い合わせもあり、移住・定住施策の受け皿としての役割も果たした。次に、空き家対策促進事業補助金については、空き家の利活用や適正管理、危険空き家化の防止につながった。また、空き家相談会については、所有者の不安軽減や課題整理につながり、空き家利活用に向けた第一歩を後押しする機会となった。		
課 題	空き家を求める移住希望者等のニーズは高い一方で、実際に流通可能な空き家は限られており、需要と供給のミスマッチが生じている。市が実施する調査だけでは、地域内に存在する空き家の実態把握に限界があり、市場に出ていない潜在的な空き家の掘り起こしが課題となっている。利活用が難しい老朽空き家については、改修・解体費用の負担が大きく、所有者による対応が進みにくいことから、管理不全空き家化を未然に防ぐ取組が必要となっている。		
今後の方向性	空き家バンクや補助制度、相談会等の既存施策を継続するとともに、これまで市場に流通していない潜在的な空き家へのアプローチを強化し、空き家の掘り起こしに取り組んでいく。特に、地域内の情報やつながりを活かした取組が重要であることから、区・自治会・コミュニティセンター等と連携しながら、地域に過度な負担をかけない形で空き家情報の把握や相談体制の構築を進めていく。		

◆ 関連市民団体等の主な意見及び市の対応等

関連市民団体等名称	茅野市空家等対策協議会		
主な意見	①地域の力で空き家対策に取り組むなどの動きに発展するよう、空き家相談会で定期的に実施しているミニセミナー等を地域における会議やイベントにおいて開催することを要望する。 ②空き家バンクのマッチング機会を増やすため、諏訪地方の広域連携について研究していただきたい。		
市の考えや対応など	①地域おこし協力隊制度を活用し、地区・行政区・自治会との関係構築を図り、地域内の空き家情報の把握に努め、出張相談会や空き家ツアーの開催につなげたい。 ②長野県が主導する諏訪地域連絡会を活用し、各市町村の取り組み状況や課題を共有しながら、広域化の可能性について研究をしていきたい。		

1 3つのまちの姿
安心して快適に
暮らせるまち

9 関係分野(基本計画)
公共交通 DX・アナログの再構築

SDGs



目標3

目指すまちの姿

● 住民1人あたりのバス・デマンド交通の利用回数
《現状 R4年度 1.9回/年》
目標値(R10年度末) 2.1回/年

成果指標と目標

● 住民1人あたりのバス・デマンド交通の利用回数
《現状 R4年度 1.9回/年》
目標値(R10年度末) 2.1回/年

実現したい交流
大切にしたい交流

● 市内の移動手段が充実していることで、市民の日常生活における移動する範囲や機会が増えるとともに、市外の人々が茅野市を訪れるきっかけにもつながり、市内での交流がより活発になります。

Well-Being指標と目標
(市民意識調査)

● 茅野市では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる(9.1%)

◆ 施策の進捗状況

進捗評価	担当課所見
S	- 令和6年度に茅野市公共交通ローリングプランを策定し、このプランに基づき取組を進めている。 - 成果指標については、令和10年度末の目標値のみ定めているが、すでに目標値はクリアできている。 - おおむね計画どおりに事業に取り組んでいるが、通学・通勤バスについては運行事業者のうち1社から令和8年度末で撤退したい旨の意向が示され、運行体制を抜本的に見直さざるを得ない状況である。

◆ 成果指標の動向

●住民1人あたりのバス・デマンド交通の利用回数									単年目標
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	138	AI乗合オンデマンド交通「のらざあ」の増台(車いす対応車両の導入)により、特に「のらざあ」の利用者が増えた。 目標値は単年度目標で、第6次総合計画及び茅野市・原村地域公共計画に合わせ令和10年度に2.1回としている。(評価上各年度とも同値とする)
実績値	1.9	2.7	2.9						

◆ Well-Being指標と目標(市民意識調査)

Well-Being指標	実績値(R7年度)	目標値(R10年度)
茅野市では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる	10.8%	9.1%

◆ 各重点施策と成果

地域内公共交通の構築	(担当課・係名)	地域創生課地域創生係
主な取組内容と成果 【取組】・AI乗合オンデマンド交通「のらざあ」運行補助 ・AI乗合オンデマンド交通「のらざあ」運行管理システムの効果的な運用 ・通学通勤バス運行補助 ・市内公共交通状況の周知、広報活動 【成果】・法定協議会路線(2路線)利用者数 16,149人 ・のらざあ、通学通勤バス利用者数 計144,389人(車いす対応車両増台 2台)		
課 題	「のらざあ」の利用料金の見直し ・蓼科湖方面バスの実証運行の実施 ・通学・通勤バスの運行体制等の見直し	
今後の方向性	・「のらざあ」の利用料金の見直しは新地域公共交通検討会議で協議を進め、令和8年度中に利用料金を改定する。 ・令和8年度に実施予定の蓼科湖方面バスの実証運行は、需要を十分に把握するため必要に応じて令和9年度においても実証運行を実施する。 ・通学・通勤バスの運行体制等の見直しについては、現時点においてどのように進めていくべきか未確定であるが、多くの市民に利用されていることから、継続して運行されるよう取り組む。	

1 3つのまちの姿
安心して快適に
暮らせるまち

10 関係分野(基本計画)
防災・減災

SDGs



目標3

目指すまちの姿

- 防災対策を推進し、安全で安心して暮らすことができる災害に強い支えあいのまち
- 大規模地震に備えた、安全・安心な住まいづくり

実現したい交流
大切にしたい交流

- 区・自治会、市民、事業者などが一体となって防災対策に取り組めます。
- 耐震性が低い住宅の所有者・木造住宅耐震診断士・改修事業者、長野県と連携し耐震対策に取り組めます。

成果指標と目標

- 災害・防災に関する不安を感じている市民の割合
(現状 R4年度 2%)
目標値(R10年度末) 1%
- 住宅の耐震改修戸数(現状 R5年度 年間11戸)
目標値(R10年度末) 年間15戸

Well-Being指標と目標
(市民意識調査)

- 茅野市は、防災対策がしっかりしている(26.4%)

◆ 施策の進捗状況

進捗評価	担当課所見
B	近年全国で発生する災害に対して、市民の関心は年々高まっている。災害リスクに対する不安解消には正しい知識と災害への備えが重要である。引き続き訓練や学習会等を通じた情報発信や、耐震改修の普及啓発に努めていく。

◆ 成果指標の動向

●災害・防災に関する不安を感じている市民の割合(%) ※減少目標								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		2.0	1.8	1.6	1.4	1.2	1.0	100	近年、全国的に頻発化・激甚化する災害 に対し、市民の災害に対する意識は年々 高まっている。水防・土砂災害訓練や総 合防災訓練、学習会等により災害に対す る備えを周知してまいりたい。
実績値	2.0	0.0	1.8						

●住宅の耐震改修戸数(戸)								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		15	15	15	15	15	15	67	当初改修予定であった希望者が、申請を取りやめたため。
実績値	11	11	10						

◆ Well-Being指標と目標(市民意識調査)

Well-Being指標	実績値(R7年度)	目標値(R10年度)
茅野市は、防災対策がしっかりしている	36.1%	26.4%

◆ 各重点施策と成果

災害時等の迅速かつ的確な対応の確立		(担当課・係名)	危機管理防災課 危機管理防災係
主な取組内容と成果	水防・土砂災害訓練及び総合防災訓練を実施。市民の災害に対する取り組み周知と、職員が災害時に迅速に対応ができるように取り組んでいる。防災備蓄については、県のアクションプランに基づき計画的に備蓄を進めている。自主防災組織活動支援事業については、日頃から、市民の自主的な防災に対する取り組みが重要であることから、補助金等の活用を推進するべく広報周知に努めた。防災情報を市民により早く、確実に届けるため、通信確保と周辺機器の整備に努めた。		
課 題	各種訓練については、訓練を通じていかに我が事として捉えてもらうかが大切である。訓練内容については、検証して、より良いものとしていくことが必要。自主防災組織の取組みについては、組織によって、向き合い方に濃淡がある。これまで以上に積極的に取り組んでもらうため、地域に根差した周知活動や学習会等を引き続き実践していくことが必要。		
今後の方向性	毎年実施する訓練内容については、出席者から聞き取りをしたり、先進市町村の聞き取り等を通じ、内容見直しを実施していく。自主防災組織の取り組み支援として、補助金の活用及び学習会等による周知活動を強化していく。老朽化した防災行政無線など各種防災機器、システムの的確な運用を推進するため、現状把握のための調査を実施し、結果に基づき計画的な入替・修繕を進めていく。		

住宅・建築物の耐震化の促進		(担当課・係名)	都市計画課建築係
主な取組内容と成果	耐震診断実施者に対する電話連絡等による個別周知、ロビー展の開催、チラシ回覧、パンフレット配布などを実施し、住宅耐震化に関する普及啓発を継続的に実施した。令和7年度は、耐震診断16件、耐震改修10件を実施した。電話連絡等による個別働きかけにより5件の耐震改修工事につながった。		
課 題	建築コストの急激な高騰により、耐震化工事に係る申請者負担が大きくなっていることや、後継者がいない高齢者世帯が増加していること、耐震化工事の効果が見えにくい事等により、耐震化目標件数に対して例年目標に達さないことが多い。		
今後の方向性	引き続きアクションプログラムを継続して実施していくとともに、高齢者向けリバースモーゲージ型住宅ローン等の耐震改修に関する融資制度や耐震改修工事の減税制度の周知を積極的に行っていく。		

3つのまちの姿
安心して快適に
暮らせるまち

関係分野(基本計画)
11 市民生活

SDGs



目標3

目指すまちの姿

- 安全で快適な交通環境を実現するまち
- 市民が消費生活に関する正しい知識を身につけ安心して暮らせるまち

実現したい交流
大切にしたい交流

- 市内外の人安全で快適に通行でき、市内の様々な場所で交流が生まれています。
- 安心して消費ができる環境により地域経済循環が促進されます。

成果指標と目標

- 交通事故数(現状 R5年度 死亡事故1件)
目標値(R10年度末) 死亡事故0件
- 出前講座実施数(現状 R5年度 実施数3回)
目標値(R10年度末) 実施数10回

Well-Being指標と目標
(市民意識調査)

- 茅野市は、歩道や信号などの交通安全施設が整備されていて安心である(32.7%)
- 茅野市は、防犯対策(交番、街灯、防犯カメラ、住民の見守り等)が整っており、治安がよい(27.4%)

◆ 施策の進捗状況

進捗評価	担当課所見
A	交通安全対策については、園児・児童・学生から始まり、自転車・自動車の交通安全対策も求められ、交通重大事故を抑止する上で必須となる中で、さらに安全対策を進めるためには、減少した地区で行う交通安全教室を開催することで、交通安全意識の向上を図る必要がある。 出前講座実施数(回)は予定通り実施しているが、高齢者だけでなく幅広い年代に被害が及んでいる。こうした状況から、若い年代も含めた、消費者被害の未然防止活動に取り組む必要がある。

◆ 成果指標の動向

●交通事故数(件) ※減少目標								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		1	1	1	1	1	0 (死亡事故)	100	近年発生している事故につきましては、自転車、自動車が単独の転落による受傷が致命傷となり、死亡している。
実績値	1 (死亡事故)	1☒	1						

●出前講座実施数(回)								累計目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		2	2	2	2	2	10	100	特になし
実績値	3	2	2						

◆ Well-Being指標と目標(市民意識調査)

Well-Being指標	実績値(R7年度)	目標値(R10年度)
茅野市は、歩道や信号などの交通安全施設が整備されていて安心である	34.6%	32.7%
茅野市は、防犯対策(交番、街灯、防犯カメラ、住民の見守り等)が整っており、治安がよい	32.4%	27.4%

◆ 各重点施策と成果

交通安全対策の推進		(担当課・係名)	建設課・交通安全係
主な取組内容と成果	児童の交通重大事故(死亡・重体)を防止するため、小学校・保育園などにおいて交通安全教室を行っています。 交通安全教室を行うため、中信運転免許センターで自転車指導員の資格を取得しました。 また、交通安全対策として市内に約1700基の道路反射鏡を設置しておりますが、経年劣化により更新する必要がある道路反射鏡については、計画的に行っており、昨年も予定通り更新しました。		
課 題	交通安全教室を行う上で、毎年道路交通法が改正されることから、最新の法解釈の上、指導することが求められています。 交通安全教室につきましては、学校によっては、自転車の教室を行うことができない学校もあることから、児童に自転車のルールを学ばせるため、区・PTAなどに対して、呼び掛けが今後必要である。 道路反射鏡更新工事につきましては、通行の頻度、劣化の程度、危険性などから撤去を含め、今後更新の必要性が求められる。		
今後の方向性	本年度も最新の知識を身に着けるべく、自転車指導員講習会に参加する。 区・PTAに対する交通安全教室開催の呼び掛けは、区長、学校に通じ呼びかけを行う。 道路反射鏡の更新工事は、現地を見た上で必要性の判断を行い、優先順位をつけ計画的に行う。		

消費者の安全の確保		(担当課・係名)	市民課・市民係
主な取組内容と成果	平成28年から富士見町・原村の住民からの相談にも対応できるように広域化を図り、消費生活相談や相談に伴う事業者とのあっせんを行っている。また、消費者被害防止のため啓発活動や出前講座により情報提供を行っている。		
課 題	近年、特殊詐欺やSNS型投資、ロマンス詐欺の被害が増加し、幅広い年代に被害が及んでいる。		
今後の方向性	出前講座の開催を含め相談専用ダイヤルによる対応とともに、消費者被害防止の啓発は、選挙時の期日前投票所でのPRや広報及びホームページ等のさまざまな機会を利用して、消費者被害の未然防止活動に取り組みます。		

13つのまちの姿
安心して快適に
暮らせるまち

12 関係分野(基本計画)
行政経営

行政改革

SDGs

11 持続可能なまちづくり
12 持続可能な消費
17 持続可能なパートナーシップ

1-12 行政経営

目標3

目指すまちの姿

●市民目線を大切にし、「たくましく やさしく しなやかに行動する職員」、「時代の変化に対応した柔軟な組織」、「安定した財政構造」の3つの視点の最適化による持続可能なまち

実現したい交流
大切にしたい交流

●縦割りと横断を使い分けた職員の柔軟な連携
●信頼関係に基づく住民と職員との交流や学び合い

成果指標と目標

●茅野市の行政サービス全般について満足している市民の割合
(現状 なし)
目標値(R10年度末) R6年度の割合を上回ること
●経常収支比率
(現状 R5年度 92.0)
目標値(R10年度末) 90.0以下

Well-Being指標と目標
(市民意識調査)

●茅野市(行政)は、地域のことを真剣に考えていると思う(29.0%)
●茅野市では、行政サービスのデジタルサービスを利用しやすい(12.9%)

◆ 施策の進捗状況

進捗評価	担当課所見
B	民生費の伸びや公共インフラの老朽化等により経常収支比率が上昇する厳しい財政状況にあるが、固定資産税やふるさと納税などの税収は、堅調に推移しつつある。また、窓口対応や利便性向上策が評価され、成果指標の「市民満足度」が目標を上回った。この成果をさらに高め、今後の財政需要の増加や人材不足といった課題を乗り越えるため、第6次総合計画を見現化する「スマートワークプロジェクト」による全庁横断的な業務改革の体制構築や、柔軟な人材獲得等を通じた「強靱な組織づくり」を前進させている。 今後は、新システムやペーパーレス等新ルールの全庁的な定着、窓口業務時間の短縮に伴う代替手段の確実な構築といった課題を着実に乗り越え、業務改革で生み出した「余力」を、人にしかできない市民サービスへ還元する好循環を創出していく。あわせて、「伝わる広報」の全庁展開により発信力を強化し、市の取組に対する市民の理解と共感を得ることで、時代の変化に対応できる持続可能な行政経営基盤を確立していく。

◆ 成果指標の動向

●茅野市の行政サービス全般について満足している市民の割合(%)								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		40.2	40.2	40.2	40.2	40.2	40.2	114	窓口職員の親切な対応への感謝や、「のらぎあ」等による利便性向上への取組に加え、健康・福祉・環境など生活に密着した分野の取組が安定して評価されたと考えられる。 一方で、「行政改革」や「DX」の成果が市民の実感として伝わっていないことや、市の活動に対する情報発信不足が課題である。また、道路舗装など身近なインフラ整備への改善要望は依然として多い。
実績値	なし	40.2	45.7						

●経常収支比率(%)								減少目標	単年目標
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0以下	96	経常収支比率の算定式(経常的な支出÷経常的な収入)のうち、経常的な収入は、景気の回復や個人所得の増加などを要因に増加している。しかし、物価の高騰や人件費の上昇などに伴う施設管理費や委託料の増加、諏訪広域連合や茅野市が構成自治体となっている一部事務組合への負担金の増加などを背景に、経常的な支出が経常的な収入の増を上回り、令和6年度と比較して0.6ポイント比率が悪化した。
実績値	92.0	93.6	94.2						

◆ Well-Being指標と目標(市民意識調査)

Well-Being指標		実績値(R7年度)	目標値(R10年度)
茅野市(行政)は、地域のことを真剣に考えていると思う		28.5%	29.0%
茅野市では、行政サービスのデジタルサービスを利用しやすい		23.0%	12.9%

◆ 各重点施策と成果

市民サービスの質の向上		(担当課・係名)	企画課・企画係 DX推進課・自治体デジタル係
主な取組内容と成果	市民サービスの向上を図るため「茅野市スマートワークプロジェクト」を立ち上げ、全庁横断的な推進体制を構築した。令和9年4月の新環境稼働に向け、文書管理、クラウドPBX、次期業務環境の導入を一体的な業務改革として進める方針を共有し、現状調査とニーズ整理を行った。また、窓口業務時間の短縮に向けた「スマート窓口推進PT」の新設や代替手段の検討、現場を牽引する「DX推進人材」の育成方針の策定など、各種準備を進めた。		
課 題	単なるシステム更新ではなく働き方を見直す業務改革であり、新システムと運用ルール(ペーパーレス等)の全庁的な定着が大きな課題である。また、窓口業務時間の短縮に当たっては、市民サービスの低下とならないように代替手段(オンライン申請等)の確実な構築が急務である。さらに、セキュリティポリシーの改定、DX推進人材への適正な人事評価と組織的サポート体制の確立も求められている。		
今後の方向性	令和8年度は、抽出した課題をもとに各システムの仕様を確定し、プロポーザル等の調達や詳細設計を本格化させる。同年10月の窓口業務短縮の試行開始に向け、代替手段の実装を進める。システムとルールの刷新により生み出した「余力」を、より人の手が必要な市民サービスへ還元し、サービスの質向上の好循環を創出する。令和9年4月の本格稼働に向け、徹底した研修・サポート体制を構築し、新しい働き方を浸透させていく。		

◆ 各重点施策と成果

広報の充実		(担当課・係名)	地域創生課・広報係
主な取組内容と成果	「伝える」から「伝わる」広報への転換を図るため、全職員を対象とした「ホームページ研修」を実施し、基本操作の習得を図った。また、「情報発信検討委員会」において、自治体に求められる情報発信のあり方についての研修や、効果的な発信方法の検討を実施した。これにより、行政情報を届ける役割は広報担当だけでなく全職員が担うことや、「伝わる」情報発信の重要性について、参加職員に強く意識付けることができた。		
課 題	取組を通じて情報発信に対する意識変革は見られるものの、広報紙やホームページにおいては、市民視点に欠ける従来通りの発信も一定数見受けられる。市民意識調査においても「市の活動が伝わっていない」という声が依然として多く、情報発信検討委員会での意識付けに基づく広報活動を、委員経験者以外の全職員へどう波及・共有していくかが大きな課題である。		
今後の方向性	情報発信検討委員の選出方法を見直すとともに、委員から所属課の全職員へ効果的に知識を展開する手法を検討し、その知識が一部の職員に留まらない仕組みを構築する。全庁一丸となって「伝わる広報」を実践し、市の取組や成果を市民への確に届けることで、行政サービスに対する市民満足度のさらなる向上につなげていく。		

持続可能な市政経営の礎となる人・組織・財政の構築		(担当課・係名)	財政課・財政係、行革推進係
主な取組内容と成果	令和7年度の財政運営においては、適正な財政規模に向けた部枠予算の導入や事務事業評価の実施、行財政改革の推進など、多角的な取組を展開した。特に公共施設の再編では3施設の民間譲渡を実現し、ふるさと納税においても寄附額を大きく伸ばすことができた。これらの取組を通じて職員の意識改革が進み、結果として中期財政需要推計における基金取崩額の圧縮につながるなど、財政の健全化に向けた確かな成果を得ることができた。		
課 題	景気の回復や所得の伸びなどを受け、市税、交付税といった歳入は増加している。一方、団塊の世代が後期高齢者に達し高齢化社会のピークを迎えたことに伴い、社会保障関係費が大きく伸びていること、また、物価や光熱費、労務単価の上昇などを受け、施設の維持管理費や業務委託費といった経常経費も大きく増えており、歳入の伸び以上に歳出が伸びている。 その結果、予算、決算ともに基金に頼った財政運営を強いられており、近い将来、基金が底をつく可能性がある。		
今後の方向性	昨年度に再開した事務事業評価の結果を予算に的確に反映させる「事業見直し」の仕組みを構築する。あわせて、全庁的な業務改革(BPR)と連動して行財政改革をこれまで以上に強力に推進し、限られた財源下でも市民サービスの質を維持・向上できる「持続可能な行財政構造」の構築に向けた取組を加速させる。		

持続可能な市政経営の礎となる人・組織・財政の構築		(担当課・係名)	総務課・職員係、人財育成係
主な取組内容と成果	導入した人財マネジメントシステムの新たな活用方法を模索し、今後の人財育成や人事管理の可能性を広げた。また、内製研修や要望に応じた研修を実施し、職員個々のスキルアップを図った。さらに、オンライン就職説明会やSPI試験の導入により採用応募の間口を広げ、多様で優秀な人材の獲得につなげた。		
課 題	各種取組により個々の資質向上は図られているものの、それが組織力全体の向上に直結するに至っていない。また、中途退職や男性の育児休業取得の増加などにより、年1回の定期的な採用活動だけでは組織の欠員補充が間に合わないという、人員体制上の厳しい課題が顕在化している。		
今後の方向性	共通の視点を軸とした、組織縦断型の職層別研修や、上位職層に対する各種マネジメント研修を体系的に実施し、変化に対応できる「強靱な組織」を構築していく。あわせて、臨時的任用の制度化など柔軟な人材獲得の手法を模索する。さらに、全庁的な業務改革と連動したテレワークの本格導入や窓口時間短縮の試行を通じて職場環境の向上に努め、働きがいのある働きやすい職場を作り上げる。		

◆ 関連市民団体等の主な意見及び市の対応等

関連市民団体等名称	茅野市行財政審議会
主な意見	茅野市行財政審議会に対しては、定期的に「茅野市行財政改革基本方針」と「行財政改革プラン2023」の取組状況を報告し、その審議内容を踏まえて、令和8年1月に審議会から「行財政改革に関する提言書」の提出を受けた。
市の考えや対応など	提言書の内容を踏まえ、行財政改革の取組を着実に進めていく。

2 3つのまちの姿
心豊かに学び育ち
活躍できるまち

1 関係分野(基本計画)
子育て

SDGs



目標3

目指すまちの姿

- 妊娠前から成人するまで、「こどもまんなか社会」の実現に向けて、子育て世帯を地域で支え合うまち
- 妊娠前から出産、子育て期にわたる切れ目ない支援により、妊婦とその家族が安心して出産、子育てができるまち
- 地域が協働して、すべての子どもへの応援を行うため、人と人とがつながる仕組み・心の居場所づくりを推進するまち

実現したい交流 大切にしたい交流

- こども家庭センター「育ちあいのちのち」と医療、福祉、教育、地域が連携しながら子どもやその家族を支えます。
- 妊産婦同士やその父親同士、育児経験者との交流
- 利用者同士の交流、異世代交流、地域との交流

成果指標と目標

- サポートプランの作成(サポートプラン作成件数/年度内の要保護児童対策地域協議会登録総数)(現状 R4年度 5%)
目標値(R10年度末) 20%
- マタニティ講座参加者の参加満足度(5段階評価で4以上の人の割合)(現状 R4年度 なし) 目標値(R10年度末) 80%
- こども館0123広場利用満足度(5段階評価で4以上の人の割合)(現状 R4年度 なし) 目標値(R10年度末) 80%

Well-Being指標と目標 (市民意識調査)

- 茅野市では、子どもたちがいきいきと暮らせる(32.0%)
- 茅野市は、子育て支援・補助が手厚い(15.5%)

◆ 施策の進捗状況

進捗評価	担当課所見
B	成果指標のマタニティ講座、こども館0123広場については達成できたが、サポートプランの作成については、達成できなかった。今後さらに進行する少子化を見据えると、現在の手法や目的が今後も最適であり続けるわけではなく、社会変化に合わせた不断の見直しをすすめなければならない。 データをもとに5年後、10年後の未来を具体的に想像し、現在の支援や制度、施設についてあり方などを考え、今から何を準備し、どう行動するかを個別対策ではなく、子どもの環境全体として捉えていく必要がある。

◆ 成果指標の動向

●サポートプランの作成(サポートプラン作成件数/年度内の要保護児童対策地域協議会登録総数)(%)								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		10.0	12.0	14.0	16.0	18.0	20.0	59	令和6年度と比べ、サポートプラン作成対象者が減少したことと、健康づくり推進課作成の妊婦に係るプラン作成者のうち、特定妊婦となった者が減ったことによる。
実績値	5.0	9.9	7.1						

●マタニティ講座参加者の参加満足度(5段階評価で4以上の人の割合)(%)								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		80	80	80	80	80	80	123	母子手帳交付時にお誘いしている。 授乳についてやだっこの仕方、マタニ ティヨガ等、出産や子育てに役立つ知識 を楽しみながら得られる講座内容とし た。
実績値	なし	100	98.0						

●こども館0123広場利用満足度(5段階評価で4以上の人の割合)(%)								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		80	80	80	80	80	80	110	特になし
実績値	なし	90	88						

◆ Well-Being指標と目標(市民意識調査)

Well-Being指標	実績値(R7年度)	目標値(R10年度)
茅野市では、子どもたちが生き活きと暮らせる	33.6%	32.0%
茅野市は、子育て支援・補助が手厚い	14.7%	15.5%

◆ 各重点施策と成果

子ども・家庭への支援の充実		(担当課・係名)	こども課こども・家庭相談係
主な取組内容と成果	【サポートプランの作成】 ・子育てに課題を持つ家庭に対して、課題の分析を行いサポートプランを作成した。 ・支援を必要としている家庭が、自らの課題と支援内容を理解し、育児不安や育児負担の軽減を図ることができた。 ・支援に関わる関係者が、支援内容を情報共有し、効果的な支援につなげることができた。 【こども家庭センター事業】 ・子育てに課題を持つ家庭に対して、子育て短期支援事業では、児童養護施設等に子どもを預け一時的に子どもと離れることで、保護者の育児疲れの軽減ができた。子育て世帯訪問支援事業では、家事支援等を行い、家事育児の負担軽減ができた。支援事業を利用することで、保護者が子育てに前向きに取り組むことができた。		
課 題	【サポートプランの作成】 サポートプランを作成し支援する際は、子育ての課題を持つ家庭と一緒に作る必要がある。そのためには、支援対象者と職員の信頼関係の構築が重要となる。併せて、サポートプラン作成の理解を得られない場合が多いため、目標よりも件数が少ない。 【こども家庭センター事業】 子育ての不安、負担を軽減することや、一時的に子どもと離れることにより、子どもの安全を守り虐待防止につなげるため、事業の委託先を増やすことが必要。		
今後の方向性	【サポートプランの作成】 ・支援家庭との対話を重ね丁寧な支援を行い、信頼関係の構築を進める。 ・重大事案が起こる前に必要な支援を行い、子どもの安全を守り虐待防止につなげる。 【こども家庭センター事業】 ・必要な時に利用できるように、委託先の開拓を進める。 ・支援家庭への事業説明資料を作成し、必要な家庭に積極的に利用勧奨していく。		

保健・福祉事業の充実		(担当課・係名)	健康づくり推進課健康推進係
主な取組内容と成果	パパママ講座、マタニティ講座を実施し、安心して出産が迎えられるよう支援している。 妊娠期から出産・子育て期まで一貫して身近で相談の応じる伴走型相談支援を行っている。 産後ケア事業で、心身のケアや育児のサポート等を行い、産後も安心して子育てができるよう支援している。		
課 題	少子化、核家族化により初めての妊娠、出産、子育てに対して孤立感、不安感を持つことは少なくないため、妊娠期から出産、子育て期にわたる切れ目のない支援が必要		
今後の方向性	母子手帳交付時は、全員と面談ができるため、妊婦さんの話をよく聞き、安心して出産、育児ができるように必要な支援をする。 産後ケア事業を使いやすいように見直す。		

居場所づくりの推進		(担当課・係名)	こども課こども係
主な取組内容と成果	・地区こども館のあり方の取組は、利用者アンケートや利用者数、時間の分析をすすめ、住民ニーズと適正な配置について共有し、各地域と検討をすすめた。また、広報紙での特集記事、健康管理センターなどでの広報活動など、開館時間中の利用促進のための取組を行った。 ・学童クラブ、地区こども館の今後の可能性について課内で議論し、周辺自治体のヒアリングを行った。 ・子どもの居場所づくり推進事業補助金を6団体へ交付した。市民活動に必要な情報の提供や勉強会を開催し、自立への支援を実施した。		
課 題	・地区こども館は、設置からの経過年数が長いにも関わらず、住民ニーズ調査や社会の変化による設置意義の見直しを行ってこなかったため、硬直化した施設となっている。施設の利用目的として、放課後の子どもの居場所という位置づけが大きく、分室や子育て支援拠点としての役割は少なくなっている。 ・地域の子どもの居場所(こども食堂)は地域のつながりの場としての評価はできるが、支援が必要な子ども・家庭に直接支援をする事業でないため、補助金のあり方を検討する必要がある。		
今後の方向性	・地区こども館は、学童クラブとの統合、地区CCの複合化、学校再編など、様々な状況の中で、今以上に変化への柔軟な対応が必要となる。子どもの居場所はそれぞれの地域にとって今後も必要か、そのニーズに地域はどう関われるのか、必要だとしたらどんな役割の場所なのかを、データなどの情報を共有しながら繰り返し地域と話していく必要がある。 ・子どもの居場所づくり推進事業補助金について、目的の再確認を行い、あり方を検討する必要がある。		

◆ 関連市民団体等の主な意見及び市の対応等

関連市民団体等名称	こども・家庭応援会議
主な意見	各団体からは、専門とする活動分野での課題や現在の状況などの意見が多い。計画や子育て支援についての意見はあまり出ていない。
市の考えや対応など	計画策定について、策定プロセスが目的化されており、策定後の進捗確認や計画の評価、検証が形骸化となっている。評価や改善の方法を策定時に入れておくことが必要。子育て環境について情報を交換したり、話し合うだけでなく、計画がなくても実施できるのではないかと。計画を作ることに一生懸命になっているため、このプランの第4次を策定するのかどうかの判断から行う必要がある。

2 3つのまちの姿
心豊かに学び育ち
活躍できるまち

2 関係分野(基本計画)
教育

SDGs



目標3

目指すまちの姿

- 幼児期からの連続した発達に配慮するとともに、バランスの取れた教育を実践することで、次世代を担う子どもたちの「生きる力」を育むまち

実現したい交流
大切にしたい交流

- 心豊かな子どもたちを育むため、学校と家庭、また地域との交流により一体となった取り組みを推進します。

成果指標と目標

- 一日保育士体験参加率(現状 R5年度 34.1%)
目標値(R10年度末) 40%
- 小学校1年生における学校生活の満足度(現状 R5年度 100%)
目標値(R10年度末) 100%(現状維持)
- 児童生徒の学校に対する満足度(現状 R4年度 87%)
目標値(R10年度末) 95%

Well-Being指標と目標
(市民意識調査)

- 茅野市は、教育環境(小中高校)が整っている(42.9%)
- 茅野市では、子どもたちがいきいきと暮らせる(32.0%)

◆ 施策の進捗状況

進捗評価	担当課所見
B	多様性を包み込み一人ひとりの良さを伸ばすを学校を目指し、縄文のビーナスプランを基調とし取り組んでいる。児童生徒の満足度が上昇していることは、取り組みが定着していると評価できる。一方で保育園と小学校の連携による取組による小学校1年生の学校生活における満足度は若干減少した。 今後も2030年の茅野市を見据え、共生社会づくりに参画する教育の実現を目指す。そのために一人ひとりの持つ多様性を大切にし、良さを伸ばすことができる幼保小中(高)と地域との連携を目指す。

◆ 成果指標の動向

●一日保育士体験参加率(%)								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	85	一日保育士体験の様子を保護者に配信し、参加に繋がるよう促し、父親の参加は若干減少したが、母親の参加が増加した。
実績値	34.1	32.5	34.1						

●小学校1年生における学校生活の満足度(%)								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	94	満足度の指数が、年に1回の「学校が楽しいか」のアンケート結果で幼保小連携教育の成果としてよいのか。何をもって幼保小連携の成果とするのか、検討が必要と思われる。
実績値	95.0	92.0	89.0						

●児童生徒の学校に対する満足度(%)								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95	学校への満足度は昨年度と比較し、2.4ポイント上昇した。これまでの取り組みが定着していると評価している。
実績値	87.0	87.4	89.8						

◆ Well-Being指標と目標(市民意識調査)

Well-Being指標	実績値(R7年度)	目標値(R10年度)
茅野市は、教育環境(小中高校)が整っている	44.3%	42.9%
茅野市では、子どもたちがいきいきと暮らせる	33.6%	32.0%

◆ 各重点施策と成果

親育ちの推進【幼児教育】		(担当課・係名)	幼児教育課・幼児教育係
主な取組内容と成果	保護者が一日保育士体験を通じ我が子や他の子と触れ合うことで、子育ての楽しさや、家庭の育児を見直すきっかけとなり「親」としての役割や責任を、喜びを感じてもらう。保育士自身の資質向上にもつなげる。		
課 題	参加に繋がるように促しをしているが、父親の参加率が減少している。		
今後の方向性	引続き子育ての楽しさや、家庭の育児の見直すきっかけづくりに繋げていく。		

育ちと学びをつなげる取組の推進【幼児教育、学校教育】		(担当課・係名)	学校教育課・学務係 幼児教育課・幼児教育係
主な取組内容と成果	・幼児期から児童期への移行について、保育園、幼稚園、学校、家庭が相互理解を深めながら、接続期に育ちをささえていく。 ・小学校に少しずつ慣れるためのスタートカリキュラムを実施し、保育園等から小学校への接続期における子どもの滑らかで連続的な育ちの支援		
課 題	・保育園での経験と体験の積み重ねにより、身に付けてきた力を小学校でいかに発揮できるようにしていくか。 ・一人ひとり成長には個人差があり、授業実施の際、柔軟な対応が必要。		
今後の方向性	・保育園と小学校の相互理解をさらに深めて、小学校区ごと取組みを更に充実されていく。 ・学校が、安心・安全な場所として感じてもらえるよう、小学区ごとに幼保小連携教育を推進する。		

次世代を担うひとづくりの推進【学校教育】		(担当課・係名)	学校教育課・学務係
主な取組内容と成果	いじめ・不登校、特別支援教育に関する支援 一人一台端末の更新やネットワーク環境の整備 特別支援教育支援員の配置等により、学びの環境を支援		
課 題	・端末更新に際し、学校現場における不具合に対する保守作業の増加。 ・ICT環境が進展していくなか、教員による活用レベルに差がでないようにすること。 ・学校からの特別支援教育支援員の要望の増		
今後の方向性	・ICTを活用することで、どのような学びができるのか、学校全体で共有し、併せて学校の働き方改革を進める。 ・支援を必要とする児童生徒の割合は年々増加しているが、教員による支援体制を再構築し、限られた体制の中、継続した支援を協議していく。		

◆ 関連市民団体等の主な意見及び市の対応等

関連市民団体等名称	茅野市保育所運営審議会
主な意見	重点施策である「一日保育士体験」及び「幼保小連携教育」について諮ったところ意見はなかった。
市の考えや対応など	引き続き第三期茅野市子ども・子育て支援事業計画(R7～R11)の経過報告と新たな事業について協議・審議をしていく。

2 3つのまちの姿
心豊かに学び育ち
活躍できるまち

3 関係分野(基本計画)
読書

SDGs



目標3

目指すまちの姿

- 「たくましく やさしい 夢のある子ども」に育つことを願い、「ことばとところを育てる読書活動」を実践するまち

実現したい交流
大切にしたい交流

- 読書を通じた親子のふれあい
- 図書館、園、学校、市民団体などの連携・交流

成果指標と目標

- 読書に関する意識(読書への興味関心)の割合
(現状 R4年度 小学校6年 86%、中学校 81%)
目標値(R10年度末) 小学校6年 87%、中学校 82%

Well-Being指標と目標
(市民意識調査)

- 茅野市では、子どもたちがいきいきと暮らせる(32.0%)

◆ 施策の進捗状況

進捗評価	担当課所見
B	家庭、保育園、認定こども園、学校、地域、図書館など読書活動をする活動の場ごとに、読み聞かせやお話し会、ファーストブック等実施できた。また、調べる学習は概ね順調に進めることができた。

◆ 成果指標の動向

●読書に関する意識(読書への興味関心)の割合(小学6年生)								累計目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		87	87	87	87	87	87	95	読書教育に関する調査は3年に1回行う。次回調査は2028年度。
実績値	86 (R4年度)	86	83						

●読書に関する意識(読書への興味関心)の割合(中学生)								累計目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		82	82	82	82	82	82	93	読書教育に関する調査は3年に1回行う。次回調査は2028年度。
実績値	81 (R4年度)	81	76						

◆ Well-Being指標と目標(市民意識調査)

Well-Being指標	実績値(R7年度)	目標値(R10年度)
茅野市では、子どもたちがいきいきと暮らせる	33.6%	32.0%

◆ 各重点施策と成果

ことばとこころを育てる読書活動の推進		(担当課・係名)	こども読書活動応援センター
主な取組内容と成果	・各活動の場ごとに工夫をしながら、読み聞かせを毎日欠くことがなく、続けてきたことは読書活動の推進につながった。 ・ファーストブック・セカンドブックプレゼントでは、各場の実情に合わせ、時間や場所、手渡し方、読み聞かせの仕方を工夫しながら、途切れることなく実施し、これらの本を活用した異年齢の読み聞かせ等、活用の広がりもみられる。 ・小中高共に、朝読書の継続の評価が高く、学校生活に根付いた活動になっている。		
課 題	・小中学校における調べる学習への取り組みは、かなり定着している。しかし、様々な場面で、調べる学習を進める中で、子どもたちがAIとどう付き合っていくかを考えていかなければならない。情報収集の際にAIを頼るのではなく、本を使って正しい情報を選択したり、人に聞いたりしながら、自分の考えを練り上げていく力をつけ、AIに負けない子どもを育てていきたい。自分の考えを裏付けるために「どのどんな資料を使ったか」ということを意識させ、出典を明記し信頼のおける情報源であることを確認し、正しい情報を見極める力が大切である。		
今後の方向性	・『図書館を使った調べる学習ナビ』を有効に活用しながら、具体的な指導を積み重ねて、理解を深めていく。 ・市全校の取組として、縄文のビーナスプランにおける「探究的な学び」と関連させた読書図書館教育を大切に考えている。調べる学習への取組を通して、子どもたちの「気づき」や「ハテナ」を捉え、一人ひとりの多様な考えや追求の道すじを大切に「調べて、まとめて、伝える」活動を積み重ねて、本を使って調べてわかることの楽しさを大事に、スキルノートや調べる学習ナビを活用しながら、スキルアップを図っていく。		

◆ 関連市民団体等の主な意見及び市の対応等

関連市民団体等名称	こども読書活動推進会議
主な意見	・電子書籍は避けて通れないツールであり、紙の本との共存が模索されている。一方で、スマホ操作に慣れた子どもが漫画のコマ割りを理解できないといった、新たな「読み方」への危機感も示された。 ・ボランティアグループの高齢化と人員不足が共通の悩みとなっており、活動を維持するための工夫が必要である。 ・図書購入予算の削減が続く中、いかに質の高い蔵書を維持し、子どもたちに適切な本を届けるかが切実な課題となっている。 ・公民館、図書館、学校、こども館などがさらに情報を共有し、施設の垣根を超えた多角的なアプローチを強化すべきである。
市の考えや対応など	・次年度の取組の中で検討しながらできるところから取組を行う。

2

3つのまの姿
心豊かに学び育ち
活躍できるまち

4

関係分野(基本計画)
生涯学習

SDGs

1 貧困

2 健康

3 持続可能な開発

4 質の高い教育

5 ジェンダー平等

6 安全な水と衛生

7 エネルギー

8 働きがい

9 産業と雇用

10 公平な社会

11 住み続けられるまち

12 持続可能な消費

13 気候変動

14 海の豊かさ

15 陸の豊かさ

16 平和と正義

17 パートナリシップ

2-4 生涯学習

目標3

目指すまちの姿

- 市民一人ひとりが自由に学習活動を行うことにより、自分自身の豊かな生活を創り、いきいきと暮らしているまち
- 皆が学んだ成果をいかし、地域に還元している自治意識の高いまち

実現したい交流
大切にしたい交流

- それぞれの分野で学ぶ人同士の交流
- 学ぶ人が活動を実践する人につながる交流

成果指標と目標

- 公民館講座等満足度(現状 R5年度 98%)
目標値(R10年度末) 100%
- 地区公民館・分館事業数(現状 R5年度 299件)
目標値(R10年度末) 現状維持
- 入館者数(現状 R5年度 図書館98,994人、ハヶ岳総合博物館11,695人、神長官守矢史料館12,141人)
目標値(R10年度末) 図書館120,000人、ハヶ岳総合博物館、神長官守矢史料館ともに15,000人

Well-Being指標と目標(市民意識調査)

- 茅野市には、学びたいことを学べる機会がある(24.5%)
- 茅野市は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい(29.1%)
- 茅野市は、地域活動への市民参加が盛んである(32.4%)

◆ 施策の進捗状況

進捗評価	担当課所見
B	・自治協働課: 公民館講座を通じて個人の学びの場を提供するとともに、個人の課題を皆の課題として取り組む意識の向上に努め、「学びと自治」を推進する。 ・生涯学習課: 図書館については、地域の情報センター、市民の居場所としての機能をさらに充実する改革を進めていく。その取組結果としてレファレンス件数、来館者数の増につながると考える。 ・文化財課: 大学や企業、関係団体、地域と連携し、学習機会を提供することができた。博物館・史料館ともに今後も時節にあった魅力的な展示や講座等を計画し、多くの市民にへの知名度を上げ、生涯学習を進めていく。

◆ 成果指標の動向

●公民館講座等満足度(%)								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		100	100	100	100	100	100	95	受講者のニーズをとらえた講座企画・運営により高い満足度を維持している。 未達部分については、「どちらでもない」という中立的な評価があったためである。
実績値	98	95	95						

●地区公民館・分館事業数(件)								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		504	504	504	504	504	299	85	各分館において、前年踏襲の事業実施を見直し、事業の廃止や類似事業の統合など、事業の再編・整理が行われている動きがある。 (目標値:10地区公民館×3事業+79分館×6事業)
実績値	299	435	430						

●図書館入館者数(人)								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		99,000	100,000	105,000	未定	未定	120,000	104	施設の照明LED化や資料の充実などにより居心地の良い図書館になるよう取り組んだ
実績値	98,994	99,561	103,929						

●ハヶ岳総合博物館入館者数(人)								累計目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		13,000	14,000	15,000	15,000	15,000	15,000	107	戦後80年や昭和100年のミニ展示、東京国立博物館が持つ茅野市出土の土器の114年振りの帰郷展の開催など、市民に足を運んでもらう機会作りに取り組んだ。
実績値	11,695	15,815	14,968						

●神長官守矢史料館入館者数(人)								累計目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		13,000	14,000	15,000	15,000	15,000	15,000	107	総合博物館と共催でウォークイベントを開催したり、尖石縄文考古館や総合博物館と連動した展示を行ったりし、市民や前宮から本宮をめぐる観光客の来館を促した。
実績値	12,414	14,960	15,035						

◆ Well-Being指標と目標(市民意識調査)

Well-Being指標	実績値(R7年度)	目標値(R10年度)
茅野市には、学びたいことを学べる機会がある	25.0%	24.5%
茅野市は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	18.2%	29.1%
茅野市は、地域活動への市民参加が盛んである	30.6%	32.4%

◆ 各重点施策と成果

「いつでも」、「どこでも」、「だれでも」学べる環境づくり【公民館】		(担当課・係名)	自治・協働課 公民館係
主な取組内容と成果	令和8年度から中央公民館とパートナーシップのまちづくり推進課が組織統合し、「自治・協働課」として新たに発足した。これにより、従来の生涯学習(学び)の場としての公民館事業と、地域自治活動(実践)の現場が一体となり、地域課題解決に向けた支援体制が整った。		
課 題	組織統合により、学びと地域自治を一体的に支援する体制は整ったが、個人の学びの成果を地域活動へつなげる具体的な仕組は十分に構築されていない。 地域との連携強化、「個人の学び」に対する高い意欲を「地域課題解決への参画」へ結びつけるための意識醸成が必要となる。		
今後の方向性	「いつでも・どこでも・だれでも学べる」環境づくりを基盤としつつ、公民館活動と地域コミュニティ活動を一体的に支援する仕組を整える。 住民が学びを地域活動に生かしやすい仕組の構築、中央公民館と地区コミュニティセンター、市民活動センター連携を強化することで、地域の担い手育成と自治力向上を目指す。		

一人ひとりの多様な学び意欲に応える機能の充実【図書館】		(担当課・係名)	生涯学習課図書館係
主な取組内容と成果	・図書館に来るきっかけづくりとして「図書館でボードゲーム」講座を初めて開催した。小学生から年配者まで様々な年代が参加し、受講者間での交流が生まれた。また、読み聞かせボランティアを講師に「絵本講座」を開催し、これから読み聞かせをはじめたい方の育成につながった。 ・公民館やハケ岳総合博物館、各種団体などと連携した館内展示を行い、新しい本との出会いの場を提供することができた。 ・工夫や改善を重ねた結果、昨年度に比べて入館者数が増加した。 ・「行きたくなる心おどる図書館」をテーマとする図書館改革に向けて、図書館協議会委員、職員が一緒に学習会を実施した。		
課 題	・一人ひとりの多様な学び意欲に応える、地域の課題解決に必要な情報を整備・提供する「地域の情報センター」として、何をすべきかを更に検討していく必要がある。 ・高齢化社会や子育て支援などに対応した居場所としての機能充実。 ・各地区にある10分室の今後のあり方について。 ・施設の経年劣化による老朽化への対応。		
今後の方向性	・学ぶ機会を充実させるため、市民が自由に情報を得ることができる環境の整備とともに、職員のスキルアップを図る。 ・担当課と連携し分室の状況を把握、それぞれの方向性について検討していく。 ・施設の日常点検による予防修繕をすすめ、安全な維持管理を継続する。 ・「行きたくなる心おどる図書館」を目指し、協議会と職員の協働で図書館改革を進める。		

郷土の自然・文化や歴史に触れ、科学に親しむ機会の充実【ハケ岳総合博物館】		(担当課・係名)	文化財課博物館係
主な取組内容と成果	・大学や関係機関、企業と連携をすすめ、特別展や講座等の博物館事業を協力して開催することができた。また、事業開催にあたって、図書館や中央公民館と連携を図り、市民に博物館事業を紹介した。 ・企画・特別展示のほか、ロビーを使ったミニ展示を行い、収蔵資料をとおして郷土の歴史に触れる機会を作った。 ・市民研究員養成講座では、市民の研究活動を促し、多くの標本を集めることができた。 ・プラネタリウムや工作、登山学習などの出前講座の要望に応え、広く自然や科学に触れる機会を作った。		
課 題	・多様化する市民ニーズを的確にとらえた学習機会の提供 ・博物館事業を周知する情報発信の方法 ・老朽化している施設の維持管理 ・資料整理と資料の収蔵場所の検討		
今後の方向性	・講座の新設や視点を変えた企画展・特別展を開催する。 ・資料整理をとおし、デジタルアーカイブの構築を検討する。 ・大学や関係機関、企業等とより連携を進める。 ・効果的な情報発信の方法を検討する。 ・職員のスキルアップを図る。		

守矢文書の保存と継承【神長官守矢史料館】		(担当課・係名)	文化財課博物館係
主な取組内容と成果	・年間4回の企画展開催。 ・博物館・考古館・文化財係と連携し、企画展や講座、周辺遺跡をめぐるイベントを開催した。 ・周遊券の販売を行い、来館者の利便を図った。 ・各種事業を開催し、入館者増につながった。		
課 題	・他県からの来館者に比べ、諏訪圏内の来館者が少ない。 ・市民の神長官守矢家及び守矢史料の貴重性の認知度が低い。 ・老朽化している施設の維持管理。		
今後の方向性	・時節に応じた内容の企画展の開催の継続 ・地域の人の来館のきっかけとなるイベントの開催 ・デジタルアーカイブの構築の検討 ・市民への効果的な情報発信の検討		

◆ 関連市民団体等の主な意見及び市の対応等

関連市民団体等名称	公民館運営審議会
主な意見	公民館・地区コミュニティセンター・ゆいわーく茅野の役割や登録制度が施設ごとに異なり、利用者にとって分かりにくいとの指摘があった。特に、同じ団体が複数施設を利用する場合でも、登録方法や更新時期がバラバラで、利用者の負担が大きいという意見が示された。 さらに、公民館での学びと地域活動が十分につながっていないという課題も挙げられ、施設が分かれていることで情報が分断され、学びを地域活動へ生かす流れが生まれにくいとの意見があった。
市の考えや対応など	利用者目線での“わかりやすさ”を重視し、各施設の登録制度や利用手続きを整理し、可能な部分から一本化を進めることで、利用者が迷わず利用できる仕組みを検討していく。 また、組織統合により、公民館活動と市民活動が同じ課の中で連携できるようになったことを踏まえ、学びの成果を地域活動へつなげる仕組みづくりを進めていく。まちづくりに関する情報提供の機会を増やし、公民館での学びが地域の実践につながるよう、自治・協働課として一体的に支援していく。

関連市民団体等名称	茅野市図書館協議会
主な意見	・今年度、本来図書館とはどうあるべきか図書館協議会の委員と職員で考える機会を持ち始めたことは、変わり始めの第一歩となっている。 ・協議会委員が議論するだけでは解決しないので、職員も交えたワークショップを行いみんなの意見を出し合い共通認識を図りたい。
市の考えや対応など	・令和8年度のはじめに図書館協議会委員と職員を交えてワークショップを開催し、それを皮切りに図書館改革を進める。

関連市民団体等名称	茅野市博物館協議会
主な意見	・事業開催にとらわれて博物館とは何かというところの根本が崩れていないかという懸念がある。博物館というのは、歴史等を記録して、後世に繋いでいくという役割があると考えているが、市場性のあるものではないので公でやっていかなければ成り立たない。 ・事業報告は開催事業の羅列のみで活動のテーマが見えない。「これを実施した」と結果のみの報告だけでなく、実施内容や目指すところ、意図するところを示してほしい。 ・イベントの情報発信が脆弱である。
市の考えや対応など	博物館、考古館、史料館、それぞれの役割があると理解している。施設の職員がその施設がなぜできたのかも十分理解して、果たすべき役割を考えて、同じ方向を向いて業務に臨むことが大切だと考える。市民に伝わっていないことがあるかもしれないという意識をもって、「果たすべき役割」が伝わるように努め、市民の理解を得ていく必要がある。

2 3つのまちの姿
心豊かに学び育ち
活躍できるまち

5 関係分野(基本計画)
文化・芸術

SDGs



目標3

目指すまちの姿

- 誰もが日常的に文化芸術に接し、個々の自由な発想による独自性を重視した創造活動が充実し、多様な文化が創造されるまち

実現したい交流
大切にしたい交流

- 市内の多様な主体による文化芸術活動を通じた交流・共創
- 姉妹都市との文化交流
- 市内の芸術家や芸術に関わる市民と県内芸術関係者との交流(信州アーツカウンシル等との協働)

成果指標と目標

- 市民芸術祭(音楽祭、芸術祭)への参加団体数
(現状 R5年度37団体)
目標値(R10年度末) 37団体
- 茅野市民館貸館事業における市民活動団体(文化芸術)などの利用回数(現状 R5年度 184回)
目標値(R10年度末) 184回

Well-Being指標と目標
(市民意識調査)

- 茅野市は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい(29.1%)

◆ 施策の進捗状況

進捗評価	担当課所見
S	施策の進捗は順調である。 ただし、成果指標の令和10年度末の数値は、今後の人口減少や、関係市民団体の高齢化、利用料金の値上げなどによる市民の文化芸術活動の規模の縮小も考えられるため、今後は数値の維持に努め、目標の達成に向けて取り組む必要がある。

◆ 成果指標の動向

●市民芸術祭(音楽祭、芸能祭)への参加団体数(団体)								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		37	37	37	37	37	37	143	市民芸術祭への出演条件を緩和した結果、参加団体が増えた。
実績値	37	46	53						

●茅野市民館貸館事業における市民活動団体(文化芸術)などの利用回数(回)								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		184	184	184	184	184	184	105	指定管理協定に基づき指定管理者が事業を行った結果、ほぼ昨年並みの利用回数となった。
実績値	184	186	193						

◆ Well-Being指標と目標(市民意識調査)

Well-Being指標	実績値(R7年度)	目標値(R10年度)
茅野市は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	18.2%	29.1%

◆ 各重点施策と成果

地域文化の創造と文化芸術活動の推進		(担当課・係名)	生涯学習課生涯学習係
主な取組内容と成果	児童・生徒の芸術への関心の向上や体験格差の解消に向けたより発展的な取組を実現させるために、学校招待公演事業を学校教育課から引継ぎ、生涯学習課としては優良芸術鑑賞講座事業と併せて、インリーチとアウトリーチの事業を揃えて実施した。結果として、それぞれの事業につき、児童・生徒や先生方の意見感想の集約につながり、今後の事業の参考にすることができた。 市民の文化活動については、市民館管理運営事業、公民館事業などの取組により、現指標上での目標値を達成することができている。		
課 題	子どもに対する事業は手厚いが、それ以外の市民(特に、様々な理由から文化芸術に接する機会に恵まれていない方)に対する文化芸術振興的なアプローチは明確に事業化されていないため、これをどのような形で行うか、研究が必要。そのためには、市内でどのような取組がなされているかの把握をする必要がある。 施策全体をとおして、成果指標が適切か研究が必要。		
今後の方向性	文化芸術推進計画の改定を契機として、6次総との施策の整合性を図りつつ、各指標の整理と上記課題について調査を進め、施策化を行っていく。		

◆ 関連市民団体等の主な意見及び市の対応等

関連市民団体等名称	茅野市文化芸術推進委員会
主な意見	・指標があいまいで実行可能な計画になっていないため、評価ができない。 ・次期計画の作成に着手し、その点の修正を行っていくべき。
市の考えや対応など	・6次総においては、計画とは別の観点で指標を設定した。 ・次期計画は、これからの茅野市における文化芸術について、実行可能かつ評価ができる内容につくりかえていく。

2

3つのまちの姿
心豊かに学び育ち
活躍できるまち

6

関係分野(基本計画)
文化財 縄文文化からの学び

SDGs

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

2-6 文化財

目標3

目指すまちの姿

●縄文時代の史跡や遺産を通じて縄文文化を学び、その本質に触れ、人づくりにつなげていくまち

成果指標と目標

●尖石縄文考古館入館者数(現状 R5年度 51,425人)
目標値(R10年度末) 60,000人

実現したい交流
大切にしたい交流

●縄文文化の専門的知識を学ぶ人、縄文文化に関心のある観光客や移住者、尖石縄文考古館で縄文文化を学んだ市民ガイド、史跡の周辺に住む人など、茅野市の縄文文化を軸に生み出される市内外に広がる人の交流

Well-Being指標と目標
(市民意識調査)

●茅野市は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい(29.1%)

◆ 施策の進捗状況

進捗評価	担当課所見
B	定例の事業のほか様々な取組みや催しを実施することで、縄文文化を学ぶ機会を提供している。また、市民ガイドの育成や土器づくりなどのサークル活動、DMOとの連携等により市内外の人達の繋がりが出来ている。

◆ 成果指標の動向

●尖石縄文考古館入館者数(人)								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	60,000	79	入館者数は連休の長さや天候状況に大きく左右される。その最大要因を別にして考えると、令和5年度～令和6年度の増加は仮面の女神国宝指定10周年記念展と巳年ロビー展に伴う体験学習や春休み向けのミニ土偶作り体験によると思われる。令和7年度は大阪万博による減少と思われる。
実績値	51,425	56,438	55,070						

◆ Well-Being指標と目標(市民意識調査)

Well-Being指標	実績値(R7年度)	目標値(R10年度)
茅野市では、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	18.2%	29.1%

◆ 各重点施策と成果

尖石縄文考古館の充実	(担当課・係名)	文化財課考古館係
主な取組内容と成果		縄文教室事業費では、縄文教室を年4回、縄文ゼミナールを年2回、随時受入れの個人及び団体の土器土偶製作体験を通年で実施、新企画の「今、私たちはこんな調査・研究をしています！」を年3回開催、合計2298名が受講し、茅野市の縄文文化や当時の生活を支えたものづくりを学んでいただいた。特別展事業費では国宝指定30周年記念展として「あの土偶この土偶 レプリカと写真で見るさまざまな土偶」を開催、会期中11,590人が来館した。史跡公園整備事業費では史跡公園内の支障木の伐採、復元住居のメンテナンス等、訪れた人が快適に利用できるように維持している。
課 題		縄文教室事業のうち、ゼミナールや「今、私たちはこういう調査・研究をしています！」等のオンラインでも開催できる講座のオンライン開催ができなかった。
今後の方向性		施設管理、史跡公園の整備事業は、来館者が館内外を快適に見学していただくために欠かさないため継続。縄文教室及び特別展事業は、茅野市の縄文文化を様々な角度で学ぶ機会となっているため、内容を吟味しながら継続。縄文文化賞事業は、継続する・しないを検討し、継続する場合でもどのような形で継続するか(隔年実施など)検討する。

縄文史跡等の整備・活用の推進		(担当課・係名)	文化財課考古館係・文化財係
主な取組内容と成果	今後の特別史跡尖石石器時代遺跡の整備・活用を行うために、平成29・30年度、令和3・4年度に行った確認調査の成果を報告書として刊行した。尖石遺跡の環境整備のために落葉松と風倒木、鹿の食害木の伐採を行った。報告書の作成により史跡整備の資料が整備されたとともに、落葉松等の伐採により一歩史跡整備が進んだ。国史跡上之段遺跡と駒形遺跡は、草刈を定期的に行い、遺跡を良好に保っている。		
課 題	特別史跡尖石遺跡石器時代の史跡整備を今後とも進めていかなければならないが、同時に、上之段遺跡・駒形遺跡の史跡整備を行っていかなければならない、しかし、人員が不足しており、進んでいない状況である。		
今後の方向性	特別史跡尖石遺跡石器時代の追加指定を行い、引き続き落葉松等の伐採を進めていく。また、史跡整備計画に則って整備を進めていく。		

「縄文を識る」取組の推進		(担当課・係名)	文化財課考古館係
主な取組内容と成果	市民総学芸員化を目指し、茅野市の縄文を楽しく識ってもらうため、縄文かるた大会を開催した。団体戦は年齢関係ないチーム戦、個人戦は年齢を考慮した4部門を設定し、子どもから大人まで楽しめる大会となった。オリジナルトートバッグと縄文手ぬぐいを作製し大会賞品とした。また、在庫切れとなっていた縄文かるたを1,200セット作製し、トートバッグ、縄文手ぬぐいとともにミュージアムショップで販売した。再販を心待ちにしていた市民も多く、茅野市の縄文に感心を持ってもらえた。		
課 題	かるた大会スタッフの確保		
今後の方向性	年齢関係なく楽しみながら茅野市の縄文を学べるかるたは、市民総学芸員化を進めるにあたり必要なため継続。		

◆ 関連市民団体等の主な意見及び市の対応等

関連市民団体等名称	社会教育委員の会議
主な意見	「社会教育推進計画」に考古館などが位置付けられ、「社会教育推進計画」でもその上位の「教育大綱」でも地域づくり・人づくりの推進、個人の学びを地域に循環させることが示されている。にもかかわらず、この会議で「社会教育の社会性」が問題となっているのは、今までの取組に問題があったのではないか。
市の考えや対応など	社会教育とは何か、という根本的な問いになっていくかと思う。その根本的な問いに向かい合っていくようにする。

関連市民団体等名称	博物館協議会
主な意見	考古館の事業について、報告として「これを実施した」と結果のみの報告ばかりで、実施内容や事業の実施の目指すところなどについてもう少し詳しく報告してほしい。また、事業にしる展示にしる、「意図するところ」を示してほしい。
市の考えや対応など	博物館、考古館、史料館、それぞれの役割があると理解しているが、それぞれの施設の職員がそのことを十分理解して、果たすべき役割を考えて業務に臨む。ただし、市民に伝わっていないことがあるかもしれないという意識をもって、「果たすべき役割」が伝わるように努める。

2 3つのまちの姿
心豊かに学び育ち
活躍できるまち7 関係分野(基本計画)
スポーツ

SDGs



目標3

目指すまちの姿

●すべての市民が「市民1スポーツ」によって豊かなスポーツライフ
で生涯を楽しく健康に生きるまち実現したい交流
大切にしたい交流●スポーツを通じた市内外の人の交流促進により、地域の一体感や
活力を生み出し、地域の活性化を図ります。

成果指標と目標

●中学2年生女子の運動やスポーツをすることが好きな子どもの
割合(現状 R5年度 76.4%)
目標値(R10年度末) 80%Well-Being指標と目標
(市民意識調査)

●茅野市では、子どもたちがいきいきと暮らせる(32.0%)

◆ 施策の進捗状況

進捗評価	担当課所見
B	運動やスポーツをすることが好きな子どもの割合は目標に届いていないが上昇傾向にある。引き続き「市民1スポーツ」の実現に向け取組を進める。

◆ 成果指標の動向

●中学2年生女子の運動やスポーツをすることが好きな子どもの割合(%)									単年目標
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	96	-
実績値	76.4	72.0	76.5						

●茅野市では、子どもたちがいきいきと暮らせる(%)								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		32.0	32.0	32.0	32.0	32.0	32.0	105	-
実績値	32.0	29.2	33.6						

◆ Well-Being指標と目標(市民意識調査)

Well-Being指標	実績値(R7年度)	目標値(R10年度)
茅野市では、子どもたちがいきいきと暮らせる	33.6%	32.0%

◆ 各重点施策と成果

地域における子供のスポーツ機会の充実		(担当課・係名)	スポーツ健康課スポーツ健康係
主な取組内容と成果	生涯スポーツの契機である幼少期の運動機会の創出のため、幼児トリム教室、小学生エンジョイスports教室などの実施に加え、茅野市スポーツ協会、日本トップリーグ機構との共催で「あそびバ！」を実施した。		
課 題	募集人員に満たない教室などについてニーズに応じて見直しを行う。また、部活動の地域展開に関して必要となる講座等を実施する。		
今後の方向性	引き続き、ライフステージ等に応じた運動教室・イベントを実施し、生涯を通じていつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しみ継続的に楽しめる機会及びきっかけの創出を図る。		

SDGs



2 3つのまちの姿
心豊かに学び育ち
活躍できるまち

8 関係分野(基本計画)
共生社会

多様性の尊重

目標3

目指すまちの姿

- 様々な人や市民団体などが役割とやりがいを持ってまちづくりに参画し、協働できるまち
- 男女がお互いの特性と人権を尊重し、それぞれの個性や能力を発揮できるまち
- 国籍や文化の違いを超えて、市民がお互いを尊重し、対等な関係を築き、共に生きることができる社会を実現する、多文化共生のまち

実現したい交流
大切にしたい交流

- あらゆる人が、お互いの考え方や生き方などを尊重し、それぞれの個性や能力を発揮できる環境を整え、様々な分野における交流を促す基盤を構築します。

成果指標と目標

- 審議会・委員会などの女性登用率
(現状 R5年度 28%)
目標値(R10年度末) 35%
- 市役所窓口における申請書などのルビ振りや「やさしい日本語」による作成状況の割合(現状 R5年度 35.2%)
目標値(R10年度末) 40%

Well-Being指標と目標
(市民意識調査)

- 茅野市には、困ったときに相談できる人が身近にいる(56.6%)
- 私は、同じ区(または自治会)に住んでいる人が困っていたら、手助けをする(62.4%)
- 茅野市には、女性が活躍しやすい雰囲気がある(12.9%)

◆ 施策の進捗状況

進捗評価	担当課所見
B	(生涯学習課)審議会・委員会などにおける女性登用率が徐々に高まってきており、女性初の首相が誕生したことも世間の意識をさらに変えていく一押しになると考えられる。なお、審議会・委員会の女性登用率を成果指標とすることには疑問があり、今後指標の再考が必要と考える。 (地域創生課)外国籍市民が微増している中、外国語(やさしい日本語含む)対応物も増やしている。 (自治・協働課)成果指標には設定していないが、令和5年度から2年にわたって進めてきたモデル区会議が区切りとなり、参加区の1つである小堂見区での回覧板アプリ導入や区・自治会からの要望書の電子化等、区・自治会の運営効率化や負担軽減、あり方検討等の協議・支援が進んでいる。

◆ 成果指標の動向

●審議会・委員会等の女性委員登用率(%)								累計目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	83	女性初の首相が誕生するなど、社会や政治の場面で女性の活躍が顕著になったことから、積極的に女性委員を登用しようという意識が高まっている。
実績値	28.0	28.2	29.0						

●「やさしい日本語」(ルビを振ったもの)や外国語で表記した申請書等の作成数(件)								累計目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		—	1	1	1	1	4	100	R7年度評価分から評価指標を変更(市役所窓口における年度ごとの申請書の数の把握が困難であったため、割合から件数に変更)
実績値	1	1	1						

◆ Well-Being指標と目標(市民意識調査)

Well-Being指標	実績値(R7年度)	目標値(R10年度)
茅野市には、困ったときに相談できる人が身近にいる	27.6%	56.6%
私は、同じ区(または自治会)に住んでいる人が困っていたら、手助けをする	63.3%	62.4%
茅野市には、女性が活躍しやすい雰囲気がある	14.3%	12.9%

◆ 各重点施策と成果

自治・協働によるまちづくりの実現		(担当課・係名)	自治・協働課 地域コミュニティ係
主な取組内容と成果	・区・自治会の運営効率化や負担軽減、あり方検討等の協議のため、令和5年から取り組んだモデル区会議(計21回)が区切りとなった。その中で、令和7年度は区・自治会の負担軽減として、要望書をロゴフォーム(DX化)で提出できるようにした。また、検討してきた回覧板アプリを小堂見区が導入し、情報伝達の効率化や、離れた場所でも情報が閲覧できる体制を構築することができた。 ・パートナーシップのまちづくりについて、取組の再構築(市と市民が協働する際の役割分担等について協議し、何らかの形を残す)の必要性があった中で、パートナーシップのまちづくり推進会議準備委員会を3回開催し、パートナーシップのまちづくり再構築指針(案)を作成した。		
課 題	・これまでのモデル区会議にて、区・自治会の運営効率化や負担軽減策の検討・実施に取り組んできたが、これらには進めることの限界があることもみえてきた。また、会議内容が参加者だけの情報共有に留まってしまい、区・自治会の中での共有が進まないことも課題となっている。 ・パートナーシップのまちづくり再構築指針(案)について、パートナーシップのまちづくり推進会議を開催し、さらに協議・検討する必要がある。		
今後の方向性	・持続可能な区・自治会のあり方の検討をより一層進めていくための第2期モデル区会議を企画し、区・自治会の魅力発信をしたり、学びの力を自治へつなげられるよう、公民館役員を含めて運営し、事例集等の作成をして、区・自治会が自ら変革していける支援を行っていく。 ・パートナーシップのまちづくり推進会議にてパートナーシップのまちづくり再構築指針を策定し、政策形成過程への市民参画・協働を進めるとともに、庁内推進体制の再構築、職員の意識改革等も進めていく。		

男女共同参画の推進		(担当課・係名)	生涯学習課 生涯学習係
主な取組内容と成果	・「男女共同をテーマにした川柳コンテスト」を開催し、市民等154名から437作品の応募があった。川柳を通して、男女共同参画を考える機会をつくった。参加者から「作品をつくるにあたって、家族で話し合った」「各家庭の様子や考え方が伝わってきた」「家族のコミュニケーションのきっかけとなった」という意見があった。 ・これまでの活動の検証・分析を行うことや今後の取組を検討した。		
課 題	活動の意味・目的・成果の検証・分析が行われず、毎年同じ取組を継続している(活動の形骸化)。		
今後の方向性	・これまでの活動について検証・分析を行うとともに、茅野市における男女共同参画の課題とアプローチ先を再検討する。 ・取組共通テーマを「男女共同参画の視点からの防災」とし、今後の取組について検討する。		

多文化共生のまちづくりの推進		(担当課・係名)	地域創生課 地域創生係
主な取組内容と成果	・多言語(英語、ベトナム語)及びやさしい日本語による生活情報誌の作成 ・月1回の外国籍市民相談、窓口の設置 ・毎週の日常生活相談と日本語教室の開催 ・外国籍市民講座の開催		
課 題	茅野市に在住する外国籍市民は微増傾向で、外国籍市民相談での相談内容は、個人単位の相談から家族単位(夫婦間のものや子どものことなど)の相談に段々とシフトし、複雑化してきている。内容も深くケースワークが必要な要素が強くなってきている。		
今後の方向性	日本人、外国籍市民の区分けはあると思われるが、上記の課題から実務的な対応を考えると他の部署で所管の方がよいと考えられる場面が多く、より適正な事務の執行のため所管替えを調整していきたい。		

◆ 関連市民団体等の主な意見及び市の対応等

関連市民団体等名称	男女共同参画推進会議
主な意見	家庭・教育専門部会から、全体での共通テーマとして「男女共同参画の視点からの防災」を取り上げることについて提起があった。
市の考えや対応など	「男女共同参画の視点からの防災」について、男女共同参画推進会議で取り組むことに決定したため、防災課等と連携し、委員の意見を聞きながら何ができるか一緒に検討していく。

3 3つのまちの姿
活力と魅力があふれる
輝けるまち

1 関係分野(基本計画)
農林業

SDGs



目標3

目指すまちの姿

- 美しい田園風景を大切にし、魅力ある農業を実現するまち
- 八ヶ岳の裾野に広がる豊かな森林を次世代へつなげるまち

実現したい交流
大切にしたい交流

- JA信州諏訪、諏訪農業農村支援センターなどの関係機関と連携し、生産者、販売者、消費者などとのつながりを広げ、農業振興を進めます。
- 東京都柏江市との脱炭素社会の実現に関する連携協定に基づき、都市部の親子と市民が、森林の保全や環境学習などを通じて交流することにより、相互の地域活力の創出につなげます。

成果指標と目標

- 認定新規就農者認定件数(現状 R5年度 2件)
目標値(R10年度末)累計 10件
- 間伐整備実施面積(搬出・切捨間伐・環境整備)
(現状 R5年度 25.48ha)
目標値(R10年度末) 累計 300ha

Well-Being指標と目標
(市民意識調査)

- 茅野市には、若者が活躍しやすい雰囲気がある(10.0%)
- 将来生まれてくる世代のために、よい環境や文化を残したい(80.9%)

◆ 施策の進捗状況

進捗評価	担当課所見
S	認定新規就農者の確保については、関係機関の連携や、茅野市における「高冷地」という気候の優位性が奏功し、計画目標を上回る実績で推移しています。 間伐整備については、実施箇所の選定、意向調査の翌年度に間伐実施の流れが確立されてきています。また森林所有者及び地元区に対し、制度内容と施工内容を分けて説明会を開催することで、事業に対する理解を得ることができています。結果、令和7年度の実施面積は林業事業体の経営計画による間伐整備と合わせ計画を上回る森林整備に繋がりました。

◆ 成果指標の動向

●認定新規就農者認定件数(件)									単年目標
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		2	2	2	2	2	10	300	温暖化の影響で、高冷地を求めて新規参入する農家希望者が増えている。
実績値	2	6	6						

●間伐整備実施面積(搬出・切捨間伐・環境整備)(ha)									単年目標
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	300	132	意向調査の結果、土地所有者及び地域住民の理解が広範囲で得られた。
実績値	25.48	25.9	79.0						

◆ Well-Being指標と目標(市民意識調査)

Well-Being指標	実績値(R7年度)	目標値(R10年度)
茅野市には、若者が活躍しやすい雰囲気がある	13.2%	10.0%
将来生まれてくる世代のために、よい環境や文化を残したい	80.3%	80.9%

◆ 各重点施策と成果

農業振興の推進		(担当課・係名)	農林課・農政係
主な取組内容と成果	信州ちの就農LABOなどの農業者やJA、長野県等の協力もあり、令和7年度の農業人フェア面談者59名、農家を「知る」ツアー21名、窓口面談者29名となり年々相談者は増えている。		
課 題	農業者の高齢化や減少に伴う遊休荒廃地の拡大は、今後も大きな課題である。		
今後の方向性	信州ちの就農LABOなどの農業者やJAや長野県等と連携し、新規就農者の獲得や農業経営への支援へは、継続して行っていく必要がある。		

林業振興の推進		(担当課・係名)	農林課・林務係
主な取組内容と成果	森林環境譲与税を活用した森林経営管理事業として、整備の行き届いていない個人有林を選定し4.89haの意向調査を実施。すでに調査済の林地を含めR8年度に整備を実施。また、前年度までに意向調査及び外周測量の終了したものについて、38.58haの森林整備を実施した。市内を16ブロックに分けて全域で継続した森林整備が行われている。		
課 題	所有者の森林離れと放置森林の増加。		
今後の方向性	整備の行き届いていない森林の整備を進めるとともに、林野庁が示す森林環境譲与税の使途の範囲で幅広く事業展開をしていく必要がある。		

3 3つのまちの姿
活力と魅力があふれる
輝けるまち

2 関係分野(基本計画)
商工業

SDGs



目標3

目指すまちの姿

- 個性豊かな商店、元気ある事業者などが協力し合い、賑わいを創出できるまち
- 「人」がつながり、「技」がつながり、新たな「活力」を産み出す、強く、やさしい、ものづくり企業のまち

実現したい交流 大切にしたい交流

- イベント事業などにより、人が集まり、人が行き交い、交流することにより、まちに賑わいと活力が生まれます。
- 公立諏訪東京理科大学をはじめとした大学、産業支援機関、技術系教育・研究機関との連携・協働により、様々な知見や農業、林業などの多業種との交流を推進します。

成果指標と目標

- 創業者数(創業・開業資金の利用者数)
(現状 R5年度 31人)
目標値(R10年度末) 累計 50人
- 中小企業振興補助金と製造業労務環境等設備補助金の投資合算額
(現状 R5年度 10億6,049万円)
目標値(R10年度末) 累積 50億円

Well-Being指標と目標 (市民意識調査)

- 茅野市では、やりたい仕事を見つけやすい(9.5%)
- 茅野市には、新たなことに挑戦・成長するための機会がある(17.3%)

◆ 施策の進捗状況

進捗評価	担当課所見
S	商業振興ビジョン推進部会の設置に伴い各事業の見直しを進めていく事が出来たと考えている。令和7年度は成果として1つの事業の補助金の見直しを行うことが出来た。引き続きニーズに合ったものを検討し、見直しを行うことで街の賑わい創出に繋がると考える。 工業関係では、企業の積極的な経営姿勢により、設備投資の拡大につながり、目標値を達成することができたと思う。順調な進捗であったと評価する。 中小企業振興補助金は、企業誘致につながる支援である。引き続き、成果指標の達成に向けた取組を進めていく。全体として、事業の進め方を変えていくことで、成果の向上が見込めるものと考えている。事業の廃止ではなく、見直しを行っていく。なお、D評価の人材育成等支援事業は、3-4雇用、人材育成、企業・創業に記載する。

◆ 成果指標の動向

●創業者数(創業・開業資金の利用者数)(人)								累計目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		41	51	61	71	81	81	125	開業・創業資金については引き続き増加傾向となっている。商工会議所で行っている諏訪地域創業スクールの効果の出ていると考えられる。
実績値	31	48	64						

●中小企業振興補助金と製造業労務環境等設備補助金の投資合算額(千円)								累計目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		2,000,000	2,500,000	3,000,000	4,000,000	5,000,000	5,000,000	106	工場の増築、生産性向上につながる機器類の設備投資が堅調に推移し、目標額を達成した。
実績値	1,060,490	1,963,450	2,655,676						

◆ Well-Being指標と目標(市民意識調査)

Well-Being指標	実績値(R7年度)	目標値(R10年度)
茅野市では、やりたい仕事を見つけやすい	8.3%	9.5%
茅野市には、新たなことに挑戦・成長するための機会がある	12.8%	17.3%

◆ 各重点施策と成果

商業振興の推進		(担当課・係名)	商工課・商業労政係
主な取組内容と成果	商業振興ビジョン推進部会に具体的な計画の策定と推進のために4つの専門部会を創設した。専門部会の1つであるイベント部会において消費喚起イベント事業補助金の見直し協議を行い、より利用が見込めるよう要綱の改正を行った。		
課 題	一部の補助金について見直しを行うことが出来たが、中心市街地の賑わい創出のために他の補助金事業の見直しの検討が引き続き必要となる。 現在は ・商店街活性化イベント事業補助金 ・空き店舗等活用事業補助金 以上が昨年度より協議が継続しているものになっている。		
今後の方向性	商業振興ビジョン推進部会を通じて部会員でもある茅野商工会議所、各商業会と協議を行い、引き続き見直しを行っていく。特に課題に記載のある2つの補助金の見直しについては優先課題として扱っていく。		

工業振興の推進		(担当課・係名)	商工課 工業・産業振興係
主な取組内容と成果	・中小企業振興補助及び製造業労務環境等設備補助金 18件、設備投資額692,226千円 ・販路開拓等支援事業 工業展等出展補助交付件数:25件、販路拡大に伴う新規契約:117件 ・新技術・新製品開発事業 新技術・新製品研究開発に関する相談件数:9件、補助金交付企業数:9社(内、大学技術指導が1件)		
課 題	・新規の工場立地については、空き用地がほぼ無いことからすぐに結果を出すのが難しい。 ・原料・燃料費、人件費の高騰等により、今後の設備投資を控える可能性がある。 ・企業立地支援事業費で、中小企業振興補助金以外の予算科目が少額である。 ・新技術・新製品の開発後の販売状況など、成果の補足が難しい。 ・茅野・産業振興プラザについて、補助金額の見直しに加え、事業の見直しを継続的に実施していく必要がある。 ・理科大との具体的連携(研究開発、技術指導等)が少ない。		
今後の方向性	・最重点事業として、税収確保、雇用の創出による人口増加に直結する企業立地支援事業の取組を進めていく。大規模案件の企業誘致について、長野県との土地利用調整計画の協議を進めていく。 ・企業立地支援事業の予算額の配分を重点的に行う必要があると考える。産業用地ワーキンググループで引き続き候補地の選定を進め、産業用地整備につなげ、産業用地の積極的な売り込みができるよう、展示会等への出展費用や旅費の確保をしていく。 ・A評価である新技術・新製品開発事業は、新たな販路拡大やビジョンで掲げる「グローバルニッチトップ」に直接つながる支援内容である。第6次総合計画の方向性にも記載のとおり、支援の充実を図っていく。成果の補足方法についても検討していく。 ・産学公連携推進事業は、連携先(理科大等に加え、関係機関)との関係性を強化し、具体的な連携事業を実施していくことで、市内企業の経営力強化や稼ぐ力の向上につなげていく。市内企業と大学との連携で、新製品開発に至った事例をロールモデルに、大学との連携を横展開していく。		

3 3つのまちの姿
活力と魅力があふれる
輝けるまち

3 関係分野(基本計画)
観光

SDGs



目標3

目指すまちの姿

- 雄大な自然と豊かな里山を背景とした「癒しと学びと体験」が、多くの国内外の人々を魅きつけ、新たな交流を生み出すまち

実現したい交流
大切にしたい交流

- 観光事業者のみならず、地域住民や各種産業、近隣市町村が一体となって、ホスピタリティ溢れる交流を生み出します。
- 高原と里山と文化遺産がそれぞれの魅力と特徴を発揮しながら連携して来訪者に寄り添い、長期滞在とリピートを生み出す交流
- 観光地への来訪がきっかけとなり、テレワークや移住など関係人口の拡大につながる交流

成果指標と目標

- 延べ宿泊者数(現状 R5年 1,537千人)
目標値(R10年度末) 1,768千人
- 外国人宿泊者数(現状 R4年度 1,451人)
目標値(R10年度末) 30,000人
- 観光消費額(現状R5年度 119億7,400万円)
目標値(R10年度末) 143億6,900万円

Well-Being指標と目標
(市民意識調査)

- 茅野市には、自慢できる自然景観がある(85.8%)
- 茅野市は、飲食を楽しめる場所が充実している(30.5%)

◆ 施策の進捗状況

進捗評価	担当課所見
C	観光振興ビジョンにて、4つの方針を打ち出しちのDMOや各観光連盟や観光協会と連携を進めることができたと考えている。 特に、ちのDMOとの連携については、普段からの連携を進め、観光振興をはかれたと考える。 また、既存事業に加え、令和7年度から開始した環八ヶ岳連携推進協議会の発足や毎月の幹事会の開催等、レクリゾート構想も含めた広域的な連携をさらに進め、具体的な事業の実施を図り、観光振興を図ってまいりたい。

◆ 成果指標の動向

●延べ宿泊者数(人)								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	1,768,000	72	コロナ収束簿回復傾向にあるが、この傾向を継続していくことが茅野市観光のカギとなる。
実績値	1,537,000	1,486,000	1,437,000						

●外国人宿泊者数(人)								累計目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	30,000	-	コロナ過からの回復はみられるが、外国人観光客の個人旅行への変容等の高まりに、十分な対応ができていない。
実績値	1,451	県未公開	県未公開						

●観光消費額(千円)								累計目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		20,000,000	20,000,000	20,000,000	20,000,000	20,000,000	14,369,000	58	交通網の改良による通過型観光に拍車がかかり、滞在することへの付加価値があげられていない。
実績値	11,974,000	11,578,520	11,578,520						

◆ Well-Being指標と目標(市民意識調査)

Well-Being指標	実績値(R7年度)	目標値(R10年度)
茅野市には、自慢できる自然景観がある	80.2%	85.8%
茅野市は、飲食を楽しめる場所が充実している	31.9%	30.5%

◆ 各重点施策と成果

観光振興の推進(新規顧客の獲得、長期間滞在・リピーターの確保)		(担当課・係名)	観光課 観光係
主な取組内容と成果	茅野市の観光への課題の打破に向け、既存事業と併せ、ちのDMOと連携した観光客ニーズの把握や環八ヶ岳連携推進協議会推進等広域的な連携を図った。		
課 題	団体型旅行から個人の関心と興味に基づく、「体験型」の個人型観光への変化が進む中、個人観光客へのニーズにいかに応じることができるかが、課題である。 現在は、インターネット等を活用した観光客ニーズの把握やPRを進めている。		
今後の方向性	ちのDMOとの更なる連携を図るとともに、レイクリゾート構想や環八ヶ岳連携推進協議会での広域連携事業の事業実施に取り組む。		

観光振興の推進(魅力ある着地型観光の体制整備・ブランド構築)		(担当課・係名)	観光課 観光係
主な取組内容と成果	観光客から「選ばれる観光地」に向けて、観光施設の整備を推進を図った。 また、ちのDMOを中心に既存事業を含めた、近隣の観光協会や観光団体の連携、旅行商品の造成等戦略的な事業展開の推進を実施。		
課 題	観光客のニーズの把握と併せ、分析を進め豊かな自然や文化、伝統など豊富な茅野市の観光資源をマッチングしていくことが必要となる。 そのために、ちのDMO等観光団体との連携や郷土の食と文化の発掘・発信事業等の事業推進を図る。		
今後の方向性	八ヶ岳の裾野に広がる大自然や「縄文」をはじめとする歴史文化、高原農業、蓼科湖・白樺湖等リゾート観光の活用することで、地域経済の活性化や交流人口増加を図る。 また、観光まちづくりを推進する中核組織「ちのDMO」を支援し観光振興を図る。		

観光振興の推進(インバウンド観光客の誘客拡大に向けた本格的対応)		(担当課・係名)	観光課 観光係
主な取組内容と成果	諏訪観光連盟と連携したインバウンド観光のPRや海外プロモーション事業の実施。 多国語対応パンフレットの作成。		
課 題	茅野市への訪れる外国人の多くは、中国、台湾等東南アジア諸国からの観光客であるが、団体から個人旅行への変化の中で、欧米からの観光客も増えています。また、欧米からの観光客は、滞在期間及び消費額も多い傾向から、茅野市での誘客と併せ、安心して滞在できる環境整備が筆世である。そのために、滞在中のトラブルにも対応を支援するシステム構築も必要である。		
今後の方向性	諏訪観光協会等広域連携に基づく誘客と併せ、Wi-Fi環境やパンフレットの多言語表記等、個人旅行の受け入れ態勢の整備を図り、外国人観光客が安心して観光できる環境整備を検討する。		

観光振興の推進(「宿泊税」への対応)		(担当課・係名)	観光課 観光係
主な取組内容と成果	長野県やちのDMO等と連携した、特別徴収義務者となる、宿泊事業者や観光関係者、観光客及び市民への把握と情報周知の実施。		
課 題	特別徴収義務者及び納税者となる宿泊者が、納得できる宿泊税の活用方法の検討。 また、当市の観光振興を実現するための最適で有効な活用方針の検討が必要。		
今後の方向性	宿泊税の活用方法について、地域創生課等庁内での協議に併せ環八ヶ岳連携推進会議等広域的な連携協議を進める中で、納税者が納得でき、効果的な宿泊税の活用を検討していく。		

3つのまちの姿
活力と魅力があふれる
輝けるまち

関係分野(基本計画)

4 雇用、人材育成、起業・創業

SDGs

目標3

目指すまちの姿

- 「住んでよし、訪れてよし、働いてよし」、活力と活気あふれるまち
- 全産業共通の課題である労働力の確保や人材の育成などに対し、様々な働き方に対応できる環境の整備や産業人材育成の充実を図るまち

**実現したい交流
大切にしたい交流**

- 産学公などの連携を通じて、教育機関、各分野の産業支援機関で行う人材育成に資する取組を有機的につなげます。

成果指標と目標

- 地域職業相談室相談者数(現状 R5年度 5,189人)
目標値(R10年度末) 累計 30,000人
- 創業者数(創業・開業資金の利用者数)(現状 R5年度 31人)
目標値(R10年度末) 累計 50人
- 茅野・産業振興プラザ主催のセミナー、ものづくり創造塾などの受講者満足度(現状 R5年度 67%)
目標値(R10年度末) 75%

**Well-Being指標と目標
(市民意識調査)**

- 茅野市では、やりたい仕事を見つけやすい(9.5%)
- 茅野市には、新たなことに挑戦・成長するための機会がある(17.3%)

◆ 施策の進捗状況

進捗評価	担当課所見
B	創業者数については、コロナ明けに伴い開業・創業資金利用者は増加傾向となっている。しかしながら人件費や原材料費の高騰など事業者には厳しい状況が予測されるので、女性起業支援や地域創業スクールなどの活動が重要になる。 企業の生産性向上、作業能率の向上につながるセミナーを開催した。企業ニーズに合った内容であることから、受講者満足度が高く、成果指標の達成につながったものと考ええる。順調な進捗であったと評価する。 企業の人材育成へのニーズは高く、企業支援を行う茅野・産業振興プラザは、重要な組織である。企業訪問等を通じた現場の声を拾いあげ、成果指標の達成に向けた取組を進めていく。 D評価の事業(人材育成等支援事業)については、人材育成のみならず人材確保につながる取組であることから、事業の廃止ではなく、見直しを行っていく。

◆ 成果指標の動向

●地域職業相談室相談者数(人)								累計目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		6,000	12,000	18,000	24,000	30,000	30,000	87	変動は少なく一定の来場者がいる状態が続いている。近年は求職情報も豊富に でており、求職者の受け入れがしやすい 状況が続いている。しかし転職サイトな ど地域職業相談室以外の利用手段もあ ることから来場者数の伸び悩みがあると 考えられる。
実績値	5,189	5,247	10,445						

●創業者数(創業・開業資金の利用者数)(人)								累計目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		41	51	61	71	81	81	125	開業・創業資金については引き続き増加傾向となっている。商工会議所で行っている諏訪地域創業スクールの効果が出ていると考えられる。
実績値	31	48	64						

●茅野・産業振興プラザ主催のセミナー、ものづくり創造塾などの受講者満足度(%)								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		71.0	72.0	73.0	73.0	75.0	75.0	102	毎年度、アンケートや企業訪問等で、企業ニーズを把握し、ニーズに合わせたセミナーを開催してきた。また、令和6年度に好評をいただいた、ものづくり学習塾を継続開催したことで、受講者満足度が向上し、目標値を達成したと考える。
実績値	67.0	70.8	73.1						

◆ Well-Being指標と目標(市民意識調査)

Well-Being指標	実績値(R7年度)	目標値(R10年度)
茅野市では、やりたい仕事を見つけやすい	8.3%	9.5%
茅野市には、新たなことに挑戦・成長するための機会がある	12.8%	17.3%

◆ 各重点施策と成果

市内企業への就業の促進		(担当課・係名)	商工課・商業労政係
主な取組内容と成果	新入社員歓迎大会 参加企業数18社、参加者数136名 ・地域職業相談室 相談件数:5198件 ・合同就職説明会 開催数:9回、参加者数804名 ・インターンシップ等促進事業補助金 利用企業数:15社 ・雇用促進奨励金 申請事業者数:11社、就職者数:22名		
課 題	各取組とも近年は数字の大きな変動はなく、一定の需要が発生している状況となっている。今以上に需要が増えるよう検討していく必要がある。		
今後の方向性	現在の需要を維持、拡大するためにも関係機関との連携をとっていく。雇用促進奨励金についても引き続き企業への周知を行い市内企業への就職へ繋げていく。		

人材育成の推進		(担当課・係名)	商工課・工業・産業振興係
主な取組内容と成果	・人材育成支援等補助 補助金交付件数:39件、研修会等受講・開催事業参加者数:75人 ・茅野・産業振興プラザ主催のセミナー 開催数:14回、受講者数:227人		
課 題	・人材育成等支援事業は、中小企業の人材確保、生産性向上等につながるものであり、ニーズはあるが、事務事業の評価が低い。 ・企業の品質管理を向上させるため、QC検定受講を推進している。QC検定2級の受講者数が減少しており、団体受検の要件(30人以上)を下回る恐れがある。また、2級の合格率が、全国平均に比べ、著しく低い。		
今後の方向性	・D評価である人材育成等支援事業は、ニーズと評価の乖離があると考える。毎年計画的に人材育成、経営改善事業等に取り組む事業者があり、参加者数は目標を達成している。商工業者のみへの周知だけでなく、林業、観光業、農業分野の事業者にも周知を行い、補助金交付件数や事業所数を増やし、全産業の人材育成につながる取組を進めていく。 ・茅野・産業振興プラザ主催のセミナーは、受講者満足度の目標値を達成している。引き続き、企業ニーズに合わせたセミナーを開催し、企業の人材育成につながる取組を進めていく。 ・QC検定の事前講習会を継続して開催し、企業へ資格取得のメリットを周知し、合格率の向上へつなげていく。		

起業・創業の推進		(担当課・係名)	商工課・工業・産業振興係
主な取組内容と成果	・産学公等連携推進事業(コワーキングスペース運営事業) 目的達成のための事業実施数:15事業 ・女性起業支援事業 参加者数:12名、起業家数:2名		
課 題	・コワーキングスペースの目的である起業・創業支援について、オフィス、ブースが満室であり、新規起業家が入居できる空きがない。 ・起業する物件探しが起業へのハードルを上げている。 ・女性起業支援事業について、事業名称で誤解を招く表現があった。		
今後の方向性	・バルビア1階のオフィスとの住み分けを行い、起業・創業支援の場として、起業・創業につながるイベントの実施(小商いイベント、スタートアップスクール等)、オフィス、ブースの空きが出た際の入居者募集案内を起業・創業希望者向けとして告知する。 ・起業家数の増加は、地域の活性化につながる。女性起業支援事業の起業家の紹介や周知を行い、起業家数の増加を図る。また、請負事業者と連携し、起業できる物件(チャレンジショップ)を提供することで、より起業しやすい環境作りを構築していく。 ・事業を実施する際に、事業名称のプレチェックを課内全体で行う。他の事業についても、公表前のプレチェックを徹底する(公表前に複数職員で検索するなど仕組化)。		

3 3つのまちの姿 活力と魅力があふれる 輝けるまち	5 関係分野(基本計画) シティプロモーション・広聴	SDGs	  	3-5 シティプロモーション・広聴
---	---	------	--	-------------------

目標3	目指すまちの姿 ●茅野市の情報を市内外に様々な方法により発信することで、市民はシビックプライド®の醸成、市外の方には茅野市を知ってもらい、新たな交流人口・関係人口が生まれ、つながっていくまち	成果指標と目標 ●地域ブランド調査全国順位(認知度) (現状 R5年度 583位) 目標値(R10年度末) 470位
	実現したい交流 大切にしたい交流 ●市内外でのプロモーションを通じた交流 ●市民の声を広く聴き、施策に反映しながらまちづくりを進める交流	Well-Being指標と目標 (市民意識調査) ●茅野市には自慢できる自然景観がある(85.8%) ●私は、私の住んでいる区(または自治会)に対して、愛着を持っている(27.1%) ●茅野市(行政)は、地域のことを真剣に考えていると思う(29.0%)

◆ 施策の進捗状況

進捗評価	担当課所見
A	東京、名古屋等地理的なターゲットやプロモーションイベントや、山をはじめとした自然環境を中心にした一貫したSNSによる情報発信によるプロモーション効果により着実に認知度の向上を図ることができている。

◆ 成果指標の動向

●地域ブランド調査全国順位(認知度)(位) ※減少目標									単年目標
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		563	543	523	503	483	483	100	目標値は、第6次総合計画の目標値に合わせ、令和10年度に483位(100位up)を目指す。 (単年度の目標は20位upとする) 変動要因は調査結果による。
実績値	583	553	510						

◆ Well-Being指標と目標(市民意識調査)

Well-Being指標	実績値(R7年度)	目標値(R10年度)
茅野市には自慢できる自然景観がある	80.2%	85.8%
私は、私の住んでいる区(または自治会)に対して、愛着を持っている	46.1%	27.1%
茅野市(行政)は、地域のことを真剣に考えていると思う	28.5%	29.0%

◆ 各重点施策と成果

戦略的な情報発信の推進		(担当課・係名)	地域創生課・広報係
主な取組内容と成果	交流人口・関係人口増加のためにSNSの発信方法を見直し、ツールとターゲットの使い分け、それぞれ発信する内容の充実とすみわけを図りフォロワー等は着実に増加しており、認知向上の成果を図ることができた。 市内向けの発信では、広報ちのや動画配信において特集記事や番組で担当課と協力しながら、様々な事業や施策について取り扱うことができた。 【成果】 ・動画再生数 365,551回、SNS(Instagram)フォロー数 10,078人		
課 題	シティプロモーションにおいては、一定年齢以上の認知向上は測れているものの30歳代以下における認知不足と、蓼科・白樺湖の観光地と茅野市とのつながりにおいても認知が不足している。 広報紙、ホームページ、行政チャンネル、SNS等多くの広報媒体を抱え、社会情勢の変化の中で運用に係る経費が増大している。		
今後の方向性	20代30代をターゲットにしたシティプロモーションを展開し、この世代の認知向上を図るとともに茅野市の強みを印象付け交流人口・関係人口の増加につなげる。 広報媒体の整理や情報の発信方法を見直しにより、質の高い情報を持続的に発信できる体制を整える。		

広聴の充実		(担当課・係名)	秘書広聴課・秘書広聴係
主な取組内容と成果	年間を通じて受け付けている市政へのメール・手紙と、各地区CCを会場に行った「まちづくり懇談会」を通じて、広く市民の声を聴き取る中で、若者や子育て世代のご意見等に触れ、回答を行うとともに、各部署の施策に反映した。「まちづくり懇談会」の提示資料については、現在茅野市が進めるまちづくりの説明の他に、若者や子育て世代に向けたメッセージも入れ込み、作成した。		
課 題	各地区CC開催の「まちづくり懇談会」における若者、子育て世代の参加者数が少ないため、参加を促す工夫が必要である。 若者、子育て世代を対象とした「まちづくり懇談会」を開催し、市政への理解とまちづくりへの参画に加え、参加者同士の横のつながりを促す仕組みが必要である。 若者、子育て世代が市政へご意見等を気軽に寄せられるように、引き続きデジタルツールの活用を検討する必要がある。		
今後の方向性	行政のみならず区・自治会、市民団体、民間企業で活躍する若者、子育て世代と積極的に交流を図り、意見や考え方、知見等を課題解決に活かしていく。		

3 3つのまちの姿
活力と魅力があふれる
輝けるまち

6 関係分野(基本計画)
交流人口・関係人口、移住・定住

SDGs



目標3

目指すまちの姿

●自然環境をいかした安全・安心で、にぎわいのあるまち

実現したい交流
大切にしたい交流

●市外の方が観光などで訪れることによる市民との交流
●田舎暮らし楽園信州の協議会や長野県、県内市町村、市内企業
などとの連携による、交流人口・関係人口の増加を促す取組の推進

成果指標と目標

- 物件見学ツアー年間参加人数
(現状 R5年度88人(うち、40代以下20人))
目標値(R10年度末) 100人(うち、40代以下30人)
- 地域ブランド調査全国順位(認知度)
(現状 R5年度 583位)
目標値(R10年度末) 483位
- 転入者数(現状 R5年度 2,106人)
目標値(R10年度末) 2,106人

Well-Being指標と目標
(市民意識調査)

- 茅野市には、若者が活躍しやすい雰囲気がある(10.0%)
- 茅野市には、適切な収入を得るための機会がある(10.7%)
- 茅野市では、適度な費用で住居を確保できる(31.1%)

◆ 施策の進捗状況

進捗評価	担当課所見
S	物件見学ツアーの参加者数は年々増加傾向にあり、当初の目標を超える参加者数となっている。移住に伴う転入者数も増加傾向にあり、当初の目標を超える人数となっている。移住希望者が若い世代に移ってきていることに合わせ、市としても若い世代の移住に確実に結びつけていくことが今後の課題である。

◆ 成果指標の動向

●物件見学ツアー年間参加人数(人)								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		100	100	100	100	100	100 (うち40代以下30)	131	コロナ禍を経て移住熱が加速している。 キャンセルがあってもキャンセル待ちの方がいて参加者が減らなくなっている(キャンセル待ちのままツアーに参加できない方が増えている)。
実績値	88 (うち40代以下20)	120	131						

●地域ブランド調査全国順位(認知度)(位) ※減少目標									単年目標
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		563	543	523	503	483	483	100	目標値は、第6次総合計画の目標値に合わせ、令和10年度に483位(100位up)を目指す。 (単年度の目標は20位upとする) 変動要因は調査結果による。
実績値	583	553	510						

●転入者数(人)								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		2,106	2,106	2,106	2,106	2,106	2,106	108	県外からの転入(外国人含む)が増加傾向である。
実績値	2,106	2,267	2,269						

◆ Well-Being指標と目標(市民意識調査)

Well-Being指標	実績値(R7年度)	目標値(R10年度)
茅野市には、若者が活躍しやすい雰囲気がある	13.2%	10.0%
茅野市には、適切な収入を得るための機会がある	11.3%	10.7%
茅野市では、適度な費用で住居を確保できる	31.3%	31.1%

◆ 各重点施策と成果

交流人口・関係人口の創出		(担当課・係名)	地域創生課地域創生係
主な取組内容と成果	・人口減少、少子高齢化に対応するために策定した茅野市地域創生総合戦略に基づき、庁内各部署が一体となり地方創生の実現に向けた取組を推進 ・地域資源の魅力等を市内外の人に向けて戦略的に発信 ・長野県マッチングシステムの運営委託 【成果】 ・交流人口・関係人口創出に向けた市内事業への参加数 134人		
課 題	事業の成果は、単に参加者数等ではなく、この事業によりどの程度の経済効果があったかなど、別の視点での捕捉が必要であると考えられるため、何らかの指標を模索していきたい。		
今後の方向性	婚活支援を除く事業は、交付金を活用した事業で、令和8年度が交付対象の最終年度である。令和8年度中に、交流人口・関係人口創出事業のあり方について方向性を決定したい。		

移住・定住の促進		(担当課・係名)	移住・交流推進室移住・交流推進係
主な取組内容と成果	・楽ちの主催による物件見学ツアーの開催及び移住体験住宅の運営 ・長野県・諏訪圏域とのセミナー等の開催 ・移住支援金の交付 ・地域おこし協力隊の採用から任期終了後までのサポート 【成果】 ・行政サポートを通じた移住者数 96人		
課 題	・物件見学ツアーへ参加したくても定員をはるかに超える申し込みで参加できない ・移住体験住宅の利用可能数より多くの申込みがある ・移住相談件数は年々増加しているが移住へどれだけ結びついているのか		
今後の方向性	・物件見学ツアーとは違う形での物件案内等の実施 ・移住体験住宅ではない民間施設等の活用案内 ・移住までの確率の高いセミナーやツアーの実施		

3 3つのまちの姿
活力と魅力があふれる
輝けるまち7 関係分野(基本計画)
中心市街地

SDGs



目標3

目指すまちの姿

- JR茅野駅周辺が交通結節点としての優れた安全性と快適性を備え、賑わいや交流の中心地として活力にあふれるまち

実現したい交流
大切にしたい交流

- JR茅野駅周辺の事業者やペルビアのテナントをはじめ、学生や企業・団体、観光客などとの交流
- 中心市街地と蓼科湖、白樺湖といった観光地をつなぐ交流

成果指標と目標

- JR茅野駅乗車人数
(現状 R5年度 3,352人)
目標値(R10年度末)4,000人
- JR茅野駅周辺の1日平均滞在者数※
(現状 R5年度 2,512人)
目標値(R10年度末) 3,000人

Well-Being指標と目標
(市民意識調査)

- 茅野市は、飲食を楽しめる場所が充実している(30.5%)
- 茅野市には、新たなことに挑戦・成長するための機会がある(17.3%)

◆ 施策の進捗状況

進捗評価	担当課所見
B	令和7年度末時点では本施策の実施による成果が直接的に指標に表れたものではなく、茅野市が進めているまちづくりが全体として奏功し、鉄道や駅周辺利用者の増加につながっているものと考え。

◆ 成果指標の動向

●JR茅野駅乗車人数(人)									単年目標
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	-	茅野市が進めているまちづくりが全体として奏功し、鉄道利用者の増加につながっているものとする。 ※令和7年度実績は5月時点でJRから未発表
実績値	3,352	3,474	未発表						

●JR茅野駅周辺の1日平均滞在者数(人)								単年目標	
	R5 (基準値)	R6	R7	R8	R9	R10	R10年度末 (目標値)	R7達成度(%)	変動要因等
目標値		3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	93	茅野市が進めているまちづくりが全体として奏功し、駅周辺滞在者の増加につながっているものとする。
実績値	2,512	2,537	2,796						

◆ Well-Being指標と目標(市民意識調査)

Well-Being指標	実績値(R7年度)	目標値(R10年度)
茅野市は、飲食を楽しめる場所が充実している	31.9%	30.5%
茅野市には、新たなことに挑戦・成長するための機会がある	12.8%	17.3%

◆ 各重点施策と成果

JR茅野駅西口エリア活性化の推進	(担当課・係名)	都市計画課都市計画係
主な取組内容と成果	新たな交流の拠点として、茅野駅前賑わい交流拠点施設「8Peaks living」の整備を完了した。	
課題	・現在ほとんど使われていないペDESTリアンデッキのテレワーク拠点施設への改修。 ・駅周辺と蓼科湖、白樺湖といった他の交流拠点と繋ぎ、市内の広範囲に賑わいを広げること。 ・茅野駅西口駅前広場の老朽化、歩行者導線の悪さの解消、ペルビアとの一体性を持った活用に向けたリニューアル。	
今後の方向性	・茅野駅前賑わい交流拠点施設の活用およびテレワーク拠点施設の整備により茅野駅周辺の滞在者数を増加させる。 ・各交流拠点を繋ぐソフト事業の実施により、6次総に掲げる交流のまちづくりを推進する。 ・茅野駅西口駅前広場のリニューアル計画の検討着手(再開)。	